

# 教養教育について

## 注 意

1. 教養教育科目は東広島，霞及び東千田の各キャンパスで開講されます。履修を希望する科目がどこのキャンパスで開講される科目なのかを別途配付する冊子「教養教育科目授業時間割」などで確認の上，履修手続等を行ってください。
2. 授業に関する連絡事項，時間割変更，休講・補講・教室変更，期末試験情報等の講義情報は「学生情報の森 もみじ」で通知します。「学生情報の森 もみじ」は学外者も閲覧可能な「もみじ Top」と，IDとパスワードを使って利用する「My もみじ」で構成されています。確認を怠ったために，思いもよらない不利益を被る場合がありますので，**一日に一度は必ず両方の「もみじ」を確認してください。**
3. 記載事項等に不明な点や疑問な点があれば，この学生便覧を持参の上，直接関係窓口で確認してください。

TOEFL 及び TOEIC はエデュケーショナル・テスト・サービス (ETS) の登録商標です。この印刷物は ETS の検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

## 目 次

I. 教養教育の理念と目的	教養 2
II. 用語解説と一般的な履修上の注意事項	教養 4
III. 授業科目の履修	教養 6
1. 平和科目	教養 6
2. 大学教育入門	教養 6
3. 教養ゼミ	教養 7
4. 領域科目	教養 7
5. 外国語科目	教養 8
(1) 英 語	教養 8
(2) 初修外国語	教養10
6. 情報科目	教養11
7. 健康スポーツ科目	教養12
8. 社会連携科目	教養13
9. 基盤科目	教養13
IV. 履修に関する手続・相談等	教養15
V. 試験及び成績	教養18
VI. 平成31(2019)年教養教育開設授業科目一覧	教養20
1. 昼間授業時間帯に開設する授業科目	教養20
2. 夜間授業時間帯に開設する授業科目	教養27
VII. 教養教育関係規則等	教養29
1. 広島大学教養教育科目履修規則	教養29
2. 外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて	教養32
VIII. 配置図等	教養34
1. 東広島キャンパス配置図	教養34
2. 総合科学部付近配置図	教養35
3. 総合科学部講義室配置図	教養36
4. 教養教育に関する掲示板位置図（東広島キャンパス）	教養40
5. 東千田キャンパス配置図	教養41
6. 教養教育担当及び各学部学生支援担当の連絡先	教養44

# I. 教養教育の理念と目的

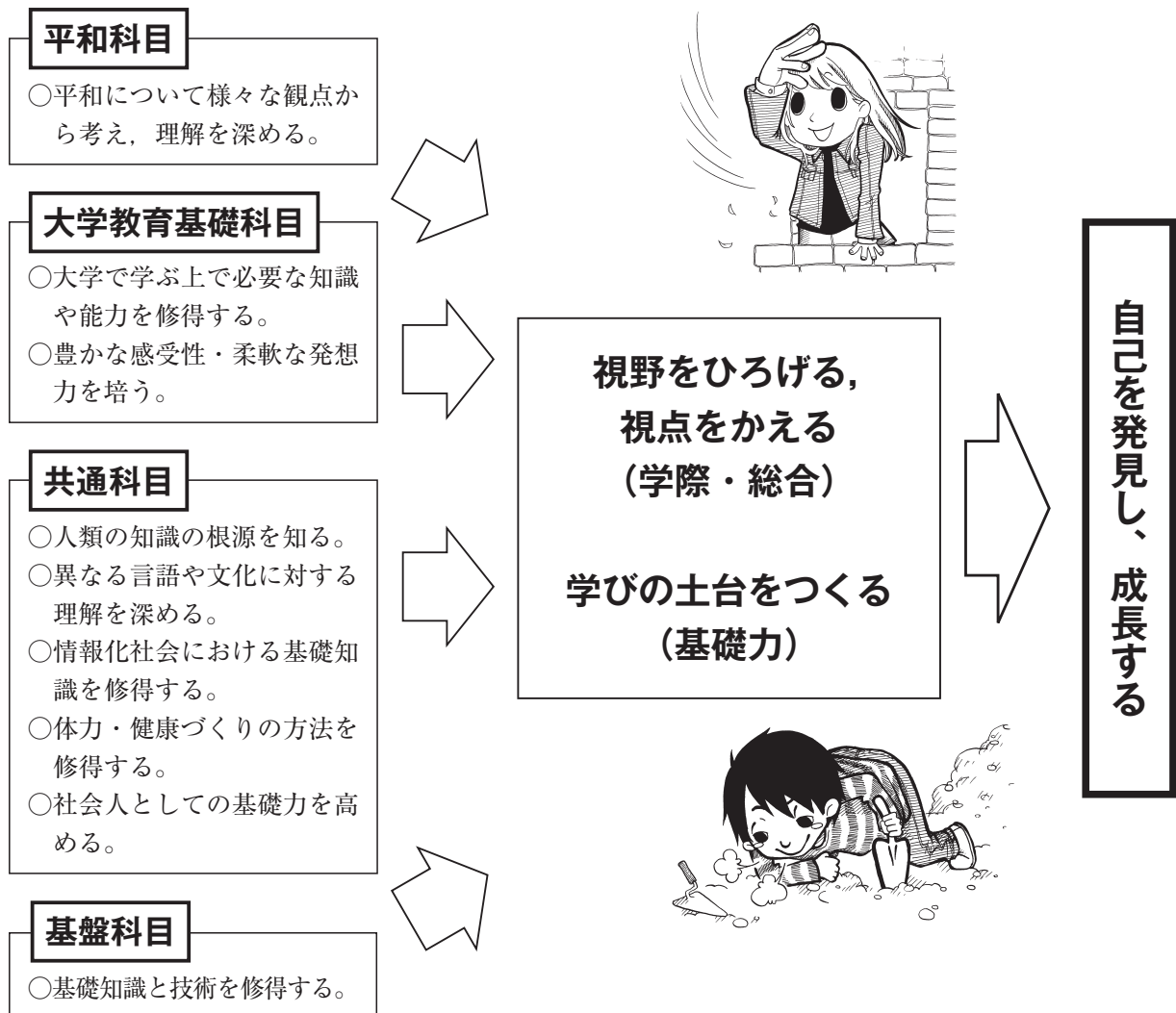
## 教養教育の理念

広島大学は、国際平和文化都市広島の地域性と国際性を重んじる建学の精神に則り、また我が国有数の規模をもつ総合大学として社会の要請にこたえるため、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指す教養教育を行い、専門的知識・技術の修得とあいまって、人間の尊厳と人類愛に基づく国際理解と世界平和への寄与を通して、国際社会に貢献する人材を育成することを目指す。

## 教養教育の目的

教養教育の目的は、幅広い教養に支えられた豊かな人間性を培うことにあります。そのためには、いわゆる専門に直結する基礎知識・技術を修得するだけでなく、その枠を超えて広く学問への関心を高め、ものごとを学際的・総合的にとらえられる能力を養うことが必要となります。ぜひ、教養教育で得たものを、みなさんの人間としての成長と人類の未来に活かしてください。

### 【教養教育の学習イメージ】



## 教養教育の科目区分

教養教育の理念と目的を達成するため、「平和科目」「大学教育基礎科目」「共通科目」「基盤科目」の4つの大科目区分から学びます。さらに、大学教育基礎科目と共通科目は複数の小科目区分から構成されています。

### 【科目区分構成】

<b>平和科目</b>	<b>大学教育基礎科目</b> { 大学教育入門 教養ゼミ	<b>共通科目</b> { 領域科目 外国語科目(英語・初修外国語) 情報科目 健康スポーツ科目 社会連携科目	<b>基盤科目</b>
-------------	-------------------------------------	--	-------------

### 【各科目区分の教育目標】

科目区分		教育目標
平和科目		戦争・紛争, 核廃絶, 貧困, 飢餓, 人口増加, 環境, 教育, 文化等の様々な観点から平和について自ら考え, 理解を深めることを目標にしています。
大学教育基礎科目	大学教育入門	大学で学ぶことの意義と目標を理解し, 大学で学ぶ上で基本となる技能や態度を身につけることを目標にしています。
	教養ゼミ	人類や社会が抱えてきた歴史的, 現代的な課題に対して, 証拠に基づき論理的に考え批判的に自身の思考を吟味する能力と, 適切に自己表現を行う能力を身につけることを目標にしています。
共通科目	領域科目	人間が蓄積してきた知識がどのようにして生まれ, 育ってきたのか, その根本の考え方は何であるのかについて, 文化的・社会的・自然科学的な視点を踏まえながら, 専門分野の枠を超えて共通に求められる知的な技法を学ぶことを目標にしています。
	外国語科目 ・英語 ・初修外国語	グローバル化時代に対応するため, 様々な外国語で情報を受信し, 発信できるコミュニケーション能力を養成し, 知識・技能を修得するとともに, 異なる言語や文化に対する理解を深めることを目標にしています。
	情報科目	高度情報化社会の中で情報及びコンピュータを活用していくのに必要となる基礎的な知識や技能を修得し, その有用性と問題点, 情報倫理上の課題を理解し, 活用する能力を身につけることを目標にしています。
	健康スポーツ科目	体力・健康づくりのための科学的理論を修得するとともに, 自己の特性やスポーツの技能水準に適合したスポーツの実践を通じて, 生涯にわたってスポーツを楽しむ態度・マナーや協調性などの社会的技能を修得することを目標にしています。
	社会連携科目	社会における多様性を理解し, 実践することを通して, 社会で生き, 活躍するために必要な力を高めることを目標にしています。
基盤科目		専門教育との有機的関連性を持つ前専門教育として, それぞれの専門分野を学ぶために必要な基礎的知識の学習により, 基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を修得することを目標にしています。

## Ⅱ. 用語解説と一般的な履修上の注意事項

### 1. 学期、ターム及びセメスターについて

広島大学では、1年間を前期（4月1日から9月30日まで）と後期（10月1日から3月31日まで）の2学期に分け、原則学期ごとに履修する授業科目を選択します。さらに、各学期の授業期間がそれぞれ2つの期間に分けられた「第1タームから第4ターム」が設けられます。各授業科目は実施方法に応じて、原則ターム内で週2回の授業を行う「ターム科目」と、学期を通じて週1回の授業を行う「セメスター科目」の2種類があります。

なお、一般的に、1年次前期を1期（1セメスター）、後期を2期（2セメスター）、2年次前期を3期（3セメスター）、後期を4期（4セメスター）・・・というように呼んでいます。

年次	1年次				2年次				...
学期	前期		後期		前期		後期		
ターム	1ターム	2ターム	3ターム	4ターム	1ターム	2ターム	3ターム	4ターム	
セメスター	1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		

### 2. 授業科目と単位について

#### (1) 授業科目

本年度の教養教育の開設授業科目は「平成31(2019)年度教養教育開設授業科目一覧」(p.教養20～p.教養28)に記載しています。なお、法学部・経済学部夜間主コースの学生は、昼間授業時間帯に開設される授業科目も、開講キャンパスを問わず定められた単位数まで履修することができます。また、夜間授業時間帯に開設される授業科目は、許可された特定の学部の学生しか履修することができません。

#### (2) 単位と単位の修得

卒業するためには、所属学部が履修基準表などで定めている一定の「単位」を修得する必要があります。

単位は、各授業科目において実施する試験に合格した場合などに修得することができます。各授業科目で修得できる単位数は、予習・復習の時間も考慮して、別に定める算定基準により決定されます。詳細は、「平成31(2019)年度教養教育開設授業科目一覧」(p.教養20～p.教養28)の「開設単位数」欄を参照してください。

#### 【修得できる単位数と学修時間（例）】

授業の方法（単位数）	学修時間	学修時間の内訳
講義（2単位）	90時間	(授業2時間+予習・復習4時間)×15回
演習・実習（1単位）	45時間	(授業2時間+予習・復習1時間)×15回
実験（1単位）	45時間	(授業3時間+予習・復習0時間)×15回

※法令の定めるところにより、いずれの授業科目も1単位の修得に45時間の学修が必要となります。

※一部の授業科目については、算定基準が異なる場合があります。詳しくは広島大学教養教育科目履修規則(p.教養29～p.教養31)を参照してください。



なお、原則として同一授業科目を重複して履修することはできません。ただし、以下の授業科目については、繰り返し履修し、一定の単位数まで単位を修得することができます。

**【重複して履修可能で単位が認められる科目】**

外国語科目	コミュニケーションⅠ，コミュニケーションⅡ， 英語圏フィールドリサーチ，コミュニケーション上級英語， 海外語学演習，ベーシック外国語（夜間授業時間帯）
健康スポーツ科目	スポーツ実習，スポーツ演習
社会連携科目	海外フィールドスタディ， 海外フィールドスタディ・アドバンスト， 実践フロントランナープログラム

### 3. その他

#### (1) 開設年次

授業科目ごとに設定される対象学年のことを、「開設年次」といいます。これは、学生にとって履修可能となる年次を意味します。例えば、開設年次「2」の授業科目の場合、3セメスターまたは4セメスターから履修することができます。

各授業科目により開設年次・開講学期が異なりますので、「平成31(2019)年度教養教育開設授業科目一覧」(p.教養20～p.教養28)，毎年度作成する冊子「教養教育科目授業時間割」または「My もみじ」などで確認してください。

#### (2) 指定授業時間

各学部, 学科・類(系), コース・専攻, プログラム(以下「各学部等」といいます。)が履修基準表などで定めている必修科目, 選択必修科目, 履修することが望ましいとする一部の科目は, 毎年度作成する冊子「教養教育科目授業時間割」の「指定授業時間割表」に示されています。これらの科目を履修する場合は, 指定された曜日・時限に履修してください。

同一の指定授業科目を複数の教員が担当する場合は, 「My もみじ」の「履修登録・参照」画面にある「教養教育科目指定クラス情報」により担当教員を確認してください。

#### (3) 修学上特別な配慮を必要とする学生の履修

修学上特別な配慮を必要とする学生は, 総合科学部事務棟1階の教育推進グループ教養教育担当または所属学部の学生支援担当で履修の仕方について相談してください。

#### (4) 2年次生以降の履修上の注意点

次年度以降において, 授業科目名が変更されることがあるので, 「もみじTop」の中にある教養教育ホームページ(<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/>)などで「教養教育科目新旧対応表」を確認してください。

## Ⅲ. 授業科目の履修

### 1. 平和科目

#### 1) 授業の目標

戦争・紛争，核廃絶，貧困，飢餓，人口増加，環境，教育，文化等の様々な観点から平和について自ら考え，理解を深めることを目標にしています。

\*平和科目群設置の目的：広島大学の理念5原則に「平和を希求する精神」が掲げられているように，学生には平和に対する意識の涵養が求められている。平和については，戦争の悲惨さを直視し，核廃絶を含む軍縮を展望する視点を育む必要性があることはいうまでもない。しかし，それ以外にも「貧困」，「飢餓」，「人口増加」，「環境」，「教育」，「文化」など多様な観点から広く平和を捉え直していくことも必要である。このような観点から「平和を考える」場を提供するために平和科目群を提示する。

#### 2) 授業の内容

それぞれの教員が，専門とする学問分野や視点から講義し，平和について考える場を提供します。すべての科目には，平和に関するモニュメントの見学とそれに関するレポートの提出が義務付けられています。

#### 3) 履修上の注意事項

- a. 学部ごとに指定された時間帯から科目を選択して履修してください。  
なお，指定時間帯，開講科目については，「教養教育科目授業時間割」または「Myもみじ」などで確認してください。
- b. 修得可能な単位数は2単位（1科目）までです。

### 2. 大学教育入門

#### 1) 授業の目標

大学で学ぶことの意義と目標を理解し，大学で学ぶ上で基本となる技能や態度を身につけることを目標にしています。

#### 2) 授業の内容

大学で何を学ぶのか，自分の目標を明確にするとともに，レポートの作成方法や，情報収集・発信をする時の倫理規範，他者との交流やかかわり方，大学の施設や各種制度などについて学習する科目です。

#### 3) 履修上の注意事項

- 学部ごとに指定された時間帯で履修してください。
- なお，指定時間帯については，「教養教育科目授業時間割」または「Myもみじ」で確認してください。



### 3. 教養ゼミ

#### 1) 授業の目標

人類や社会が抱えてきた歴史的、現代的な課題に対して、証拠に基づき論理的に考え批判的に自身の思考を吟味する能力と、適切に自己表現を行う能力を身につけることを目標にしています。

#### 2) 授業の内容

高等学校までの受身の講義ではなく、大学生らしく自主的に学習し、積極的に発言していく態度を育む科目です。自主学習の姿勢、討論への参加、質疑応答などが評価されます。

全学生2単位必修です。原則として10名程度の少人数クラスで行いますが、多人数クラスで行う学部もあります。

#### 3) 履修上の注意事項

大学生としての自覚を持ち、自学自習とそこでの十分な思考と理解をもって教養ゼミに臨み、積極的に授業に参加してください。

授業の詳細については所属学部の指示に従ってください。

### 4. 領域科目

#### 1) 授業の目標

人間が蓄積してきた知識がどのようにして生まれ、育ってきたのか、その根本の考え方は何であるのかについて、文化的・社会的・自然科学的な視点を踏まえながら、専門分野の枠を超えて共通に求められる知的な技法を学ぶことを目標にしています。

#### 2) 授業の内容

文明の継承と知的創造のために必要な基礎的知識を伝え、さまざまな学問領域についての知的関心を喚起する科目です。

それぞれの学問分野に基づいて、人文社会科学系科目群と自然科学系科目群の2つの科目群で構成されています。

#### 3) 履修上の注意事項

- a. 全学生共通して、人文社会科学系科目4単位及び自然科学系科目4単位の計8単位を修得する必要があります。領域科目では、各学部等ごとに指定時間帯を設けており、指定時間帯で開講されている科目を、1科目(2単位)ずつ履修していけば、計8単位修得することが可能です。なお、他学部・他学科指定の時間帯を除き、所属学部・学科の指定時間帯以外で開講される領域科目を履修することも可能です。
- b. 卒業に必要な単位数が8単位以上の学部もあります。また、学部によって必修科目、選択必修科目または要望科目として履修指定している授業科目が異なりますので、所属学部が定める履修基準表などを参照してください。
- c. 指定時間帯、開講科目については、「教養教育科目授業時間割」または「Myもみじ」で確認してください。

## 5. 外国語科目

### 授業の目標

グローバル化時代に対応するため、様々な外国語で情報を受信し、発信できるコミュニケーション能力を養成し、知識・技能を修得するとともに、異なる言語や文化に対する理解を深めることを目標にしています。

### (1) 英語

#### 1) 授業の内容

授業は原則として習熟度別のクラス編成になっています。

##### ① コミュニケーション基礎

WBT (Web-Based Training) による自学自習により、英語での日常生活に必要な語彙や文法 (TOEIC (R) L & R テスト600点相当) を身に付けます。

a. コミュニケーション基礎Ⅰ (原則1セメスターに開講)

b. コミュニケーション基礎Ⅱ (原則2セメスターに開講)

##### ② コミュニケーションⅠ・Ⅱ

a. コミュニケーションⅠA, コミュニケーションⅠB (原則1セメスターに開講)

ⅠAでは「話す」、ⅠBでは「読む」を中心とした基礎的運用能力を養います。

b. コミュニケーションⅡA, コミュニケーションⅡB (原則2セメスターに開講)

ⅡAでは「書く」、ⅡBでは「聴く」を中心とした基礎的運用能力を養います。

##### ③ コミュニケーションⅢ

a. コミュニケーションⅢA, コミュニケーションⅢB (3・4セメスターに開講)

ⅢAでは発表技能、ⅢBでは理解技能に重点を置き、コミュニケーションⅠ・Ⅱで身に付けた基礎的運用能力をさらに発展させます。

b. コミュニケーションⅢC (3・4セメスターに開講)

特定の目的に応じた英語の技能をさらに発展させます。

##### ④ コミュニケーション演習

日常的・国際的な場面において英語でコミュニケーションを行うための英語運用能力を養います。

コミュニケーション演習は、総合科学部国際共創学科、医学部医学科、歯学部歯学科、薬学部薬学科、薬学部薬科学科の学生を対象とした、コミュニケーション基礎に代わる科目です。

a. コミュニケーション演習Ⅰ

b. コミュニケーション演習Ⅱ

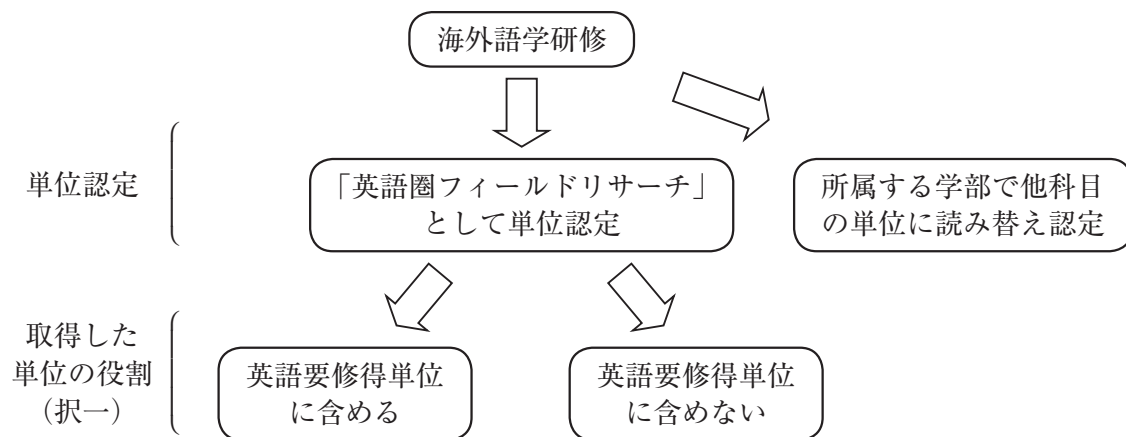
##### ⑤ 英語圏フィールドリサーチ (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/engfr/>)

英語圏の大学への海外語学研修に参加し、そこでの実生活を通して英語や英語圏文化を学び、これを単位として認定するものです。原則として研修先での30時間の研修をもって1単位 (上限4単位) とし、研修先の評価に基づいて単位が認定されます。学年に関係なく履修できます。

また、海外語学研修をコミュニケーション基礎・演習・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業科目の単位として認定する学部もあります。所属学部の学生支援担当などで確認してください。なお、一度認定された授業科目名と成績評価の変更は認められません。

研修の案内と履修手続方法については上記 URL のページをご覧ください。

### 【海外語学研修の単位認定の流れ】



※ガイダンス等で指示される所定の手続を必ず行ってください。

#### ⑥ オンライン英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (<http://onleng.hiroshima-u.ac.jp>)

コンピュータを利用し、速読訓練や聴解訓練、語彙・文法学習など特定のテーマに沿って自学自習し、30時間分の学修を1単位とし、期末試験などにより単位の認定を行います。

履修手続の方法などの詳細は、上記URLのページ及びシラバスをご覧ください。

#### ⑦ コミュニケーション上級英語

さまざまな言語活動を通じて、より高度な英語運用能力を養成することを目的とした授業です。

### 2) 履修上の注意事項

#### ① 英語の履修基準

所属学部が定める履修基準表などで、必修単位数と履修科目を確認してください。

また、学部等によっては、「英語圏フィールドリサーチ」及び「オンライン英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を卒業に必要な英語の単位数（要修得単位数）などに算入することができます。詳しくは、所属学部が定める履修基準表などを確認してください。

#### ② 正規の授業科目以外での単位の認定

TOEIC (R), TOEFL (R), 英検などの外国語技能検定試験で一定の成績以上に達している場合は、別に定める基準により単位が認定されます。(p. 教養32～p. 教養33「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照してください。)

また、放送大学を利用した単位の認定も一部の学部で可能です。詳細は所属学部の学生支援担当で確認してください。

## (2) 初修外国語

「初修外国語」として、7つの言語－フランス語、ドイツ語、中国語、アラビア語、韓国語、スペイン語、ロシア語－を開設しています。これら7つの言語は近代・現代文明の形成と切り離すことができない世界の主要な言語と、日本と地理的に近いアジアの言語からなります。

### 1) 授業の内容

#### ① 授業科目の種類

##### a. ベーシック外国語Ⅰ・Ⅱ（それぞれ1・2タームに開講，週2回）

発音・表記の基礎，簡単な文法・文型，簡単な挨拶程度の会話能力の修得を目標としています。

##### b. ベーシック外国語Ⅲ・Ⅳ（それぞれ3・4タームに開講，週2回）

ベーシック外国語Ⅰ・Ⅱに引き続き，基礎的な文型・文法の修得を目指すとともに，視聴覚教材などを活用して，初歩的な表現能力の基礎，基礎会話レベルのコミュニケーション能力の修得を目標としています。

##### c. 初修外国語をさらに深く学びたい場合は、「インテンシブ外国語」を履修することができます。

インテンシブ外国語ⅠA（1タームに開講，週2回）

インテンシブ外国語ⅠB（2タームに開講，週2回）

インテンシブ外国語ⅡA（3タームに開講，週2回）

インテンシブ外国語ⅡB（4タームに開講，週2回）

授業は原則としてネイティブスピーカーが担当します。これを，週2回のベーシック外国語と有機的に連動させ，あわせて週4回の集中的な学習を行うことにより，「話す」「聞く」「読む」「書く」の実用的な4技能の修得を目標としています。インテンシブ外国語は，フランス語，ドイツ語，中国語，韓国語，スペイン語で開講しています。学部によっては，時間割の都合上，履修できないことがあるので注意してください。

週4回でまとまりのある授業となっていますので，集中的に実践的な外国語能力が身に付きますが，それだけに受講生には積極的な参加が求められます。

※インテンシブ外国語は開講クラスが限られていますので，希望者が多い場合には抽選を行うことがあります。必要に応じて説明会を開きますので，必ず出席してください。

#### ○初修外国語の学習モデル

・ベーシック・コース（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・アラビア語・ロシア語）

1年次前期		1年次後期	
第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
ベーシックⅠ (週2回)	ベーシックⅡ (週2回)	ベーシックⅢ (週2回)	ベーシックⅣ (週2回)

➡ 初級レベル修了

・インテンシブ・コース（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語）

1年次前期		1年次後期	
第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
ベーシック I インテンシブ IA (週4回)	ベーシック II インテンシブ IB (週4回)	ベーシック III インテンシブ IIA (週4回)	ベーシック IV インテンシブ IIB (週4回)

➡ 中級レベル到達

・2年次以降「トライリンガル養成特定プログラム」 ➡ 中級レベル修了・  
上級レベルへ

○このほかに授業外の自主的な学習を支援するものとして、外国語教育研究センターでは、初修外国語の各種学習プログラム（ドイツ語技能検定準備講座やドイツ語会話など）を提供しています。

また、フランス、ドイツ、中国、韓国、スペイン、ロシアにおいて、本学又はその国の教育機関が運営する当該言語の語学研修に参加し、一定の条件を満たした場合は、「海外語学演習」の単位に読み替えることができます。詳細については、「海外語学演習」のシラバスを確認してください。

## 2) 履修上の注意事項

### ① 初修外国語の履修基準

各学部等によっては、選択可能な言語や修得すべき言語、単位数が指定されている場合があるので、所属学部が定める履修基準表などを確認してください。

### ② その他の注意事項

- a. ベーシック外国語 I で選んだものと同じ外国語を、ベーシック外国語 II・III・IVでも履修してください。
- b. 開講時間帯は「教養教育科目授業時間割」の「指定授業時間割表」などを参照してください。

## 6. 情報科目

### 1) 授業の目標

高度情報化社会の中で情報及びコンピュータを活用していくのに必要となる基礎的な知識や技能を修得し、その有用性と問題点、情報倫理上の課題を理解し、活用する能力を身につけることを目標にしています。

### 2) 授業の内容

#### a. 講義系科目

「情報活用基礎」

授業は、ガイダンスや期末試験などを除き、講義とそれに対応した実習を交互に12回行います。そこでは、「コンピュータとネットワーク技術の基礎」、「コミュニケーション」、「調査と情報」、「メディアと情報化社会」などについて多角的に考えていきます。また、情報倫理に関する講義とオンラインによる学習を行います。

なお、講義と実習は異なる教室で行われるため、時限ごとに教室を移動する場合がありますので注意してください。



### 「情報活用概論」

東千田キャンパスでのみ開講されます。

授業は、コンピュータとネットワーク技術の基礎、情報化社会の可能性と問題点について、デモンストレーションを交えて行います。

### b. 実習系科目

#### 「情報活用演習」

コンピュータの基本的操作、オフィスツールの利用、ネットワークの活用、情報倫理など、共通性の高い項目の実習を行った後、特定のテーマにそって、問題解決や情報の受発信に必要な基礎技術を修得します。必修または選択必修としている学部が開講する授業と、情報メディア教育研究センターが開講する授業があります。

## 3) 履修上の注意事項

### ① 情報科目の履修基準と授業科目の選択

- a. 所属学部が、その学部開講の「情報活用演習」を必修または指定している場合は、その科目を履修してください。
- b. 所属学部が、「情報活用基礎」を必修としている場合は、その科目を履修してください。
- c. 所属学部が、「情報活用基礎」を指定しているか、あるいは「情報活用演習」を指定しておらず「情報活用基礎」と「情報活用演習」を選択必修としている場合があります。この場合は、前期に開講される「情報活用基礎」を履修してください。
- d. 法学部・経済学部夜間主コースの学生は東千田キャンパスで開講される「情報活用概論」を履修してください。

### ② その他の注意事項

- a. 「情報活用基礎」は1週目にガイダンスを行います。

日時、教室はあらかじめ教養教育ホームページまたは「My もみじ」に掲示します。各学部等によって日時、教室が異なりますので注意してください。(毎年度作成する冊子「教養教育科目授業時間割」の「指定授業時間割表」も参照してください)

また、ガイダンス時に、コンピュータ利用経験についてアンケートを行い、その結果に基づいて、クラス編成を行います。クラスによって、2週目に行くべき教室が異なりますので、教養教育ホームページまたは「My もみじ」の掲示を必ず確認してください。

- b. 情報メディア教育研究センターが後期に開講する「情報活用演習」は再履修生を対象としており、人数制限を行うため、受講できないことがあります。

## 7. 健康スポーツ科目

### 1) 授業の目標

体力・健康づくりのための科学的理論を修得するとともに、自己の特性やスポーツの技能水準に適合したスポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ態度・マナーや協調性などの社会的技能を修得することを目標にしています。



## 2) 授業の内容

生涯にわたり健康を考える科目として、実習科目と講義科目をまとめて1つの科目区分として提供します。実習科目には「スポーツ実習A」, 「スポーツ実習B」(障害のある学生及び有疾患学生対象), 講義科目には「健康スポーツ科学」, 実習と講義を合わせた科目には「スポーツ演習」があります。

## 3) 履修上の注意事項

- a. 各学部等によって、履修基準(必修科目, 選択科目, 卒業に必要な単位数等)が異なりますので、所属学部が定める履修基準表などを参照してください。
- b. 「スポーツ実習A」, 「スポーツ実習B」および「スポーツ演習」は、同じ教員や種目、授業科目名であっても繰り返し履修することができます。ただし、1年次については、1・2タームで1科目のみ、3・4タームで1科目のみしか履修することができません(集中講義を除く)。
- c. 「スポーツ実習A」, 「スポーツ実習B」および「スポーツ演習」は、初回にガイダンスを行います。ガイダンスの場所、服装、シューズの準備などについては、各科目のシラバス及び教養教育ホームページなどにより指示します。
- d. 集中講義のガイダンス日程は別途掲示等で指示します。

## 8. 社会連携科目

### 1) 授業の目標

社会における多様性を理解し、実践することを通して、社会で生き、活躍するために必要な力を高めることを目標にしています。

### 2) 授業の内容

職場や地域社会で多様な人々と連携し協同するために必要な「社会人基礎力」を育む科目です。ボランティア教育やキャリア教育に関する科目などがあります。

### 3) 履修上の注意事項

各学部等によって、履修基準(必修科目, 選択科目, 卒業に必要な単位数等)が異なりますので、所属学部が定める履修基準表などを参照してください。

## 9. 基盤科目

### 1) 授業の目標

専門教育との有機的関連性を持つ前専門教育として、それぞれの専門分野を学ぶために必要な基礎的知識の学習により、基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を修得することを目標にしています。

## 2) 授業の内容

各専門分野における論理的骨格や学問形成に必要不可欠な基礎的知識と技術を修得する科目です。高等学校などで学んでいない学生を対象とした基礎的な内容を含む科目も開設しています（「初修物理学」、「初修生物学」など）。

## 3) 履修上の注意事項

基盤科目として卒業に必要な授業科目と単位数は、所属学部が定める履修基準表などに記載されています。それら以外の基盤科目については、卒業に必要な単位数に含まれない場合があります。

## IV. 履修に関する手続・相談等

### 1. 履修手続

所属学部が定める履修基準表などに基づき、毎年度作成する冊子「教養教育科目授業時間割」及びシラバスなどを参照しながら履修計画を作成し、履修を希望する授業科目は履修手続期間内に履修手続を完了してください。なお、同学期（1タームと2ターム、3タームと4ターム）で開講されている同一授業科目を重複して履修することはできません。また、受講者定員を超過した授業科目については受講者抽選を行いますので、その結果を必ず「My もみじ」で確認してください。

履修手続を行っていない授業科目については、授業に全て出席し期末試験を受験しても、単位を修得することはできません。

各授業科目の履修手続の詳細については、各ターム開始前に「My もみじ」で通知しますので、確認してください。

### 2. 履修相談

教養教育科目の履修に関する質問・相談は、教育推進グループ教養教育担当及び東千田地区支援室で受け付けています。また、学部が定める履修基準などに関する質問・相談については、所属学部の学生支援担当に相談してください。

連絡先などは p. 教養44を参照してください。

#### ※病気等で授業を欠席する場合について

教養教育において病気その他のやむを得ない事由により2週間以上欠席する場合は、所属学部の学生支援担当に事由を証明する書類（診断書など）を添えて、欠席届を提出してください。2週間未満の場合は、各授業担当教員へ申し出てください。

なお、教育実習・介護等体験により欠席する場合の欠席届は別に定めています。

また、病気等で試験を欠席する場合の対応は、p. 教養18の「4. 追試験」の項を参照してください。

### 3. 学習支援室

学生の学習理解の向上を図ることを目的とし、課外での補足的な学習支援を行うため、「学習支援室」を設置しています。学習支援室は、大学院生等が、学習の方法や履修上の問題点について、その解決策や糸口などを見出すための助言を行うもので、英語・化学・数学・物理を対象に、授業実施日の16時30分から18時30分まで開く予定です。

また、上記科目に生物・地学・情報を加えた7科目について、各科目の指導教員に直接問い合わせることもできます。

なお、これら履修手続や学習支援室など、教養教育に関する様々な情報は、教養教育ホームページ（<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/kyouyou/>）でも確認できます。

## ●「学生情報の森 もみじ」について

「学生情報の森 もみじ」は広島大学で学び、生活するために必要な情報を提供するシステムです。イベント情報やサークル情報、その他手続きに関する情報など、誰でも自由に閲覧可能な「もみじ Top」と、広大 ID・広大パスワードでログイン後に利用する「My もみじ」から構成されています。

### (1) 広大 ID と広大パスワード

広大 ID と広大パスワードの認証を受けて利用する「My もみじ」のサービスには、住所や成績等の個人情報の参照、履修科目の登録・変更等の手続きが含まれます。第三者によるなりすましを防ぎ、安全な学生生活を送るためにも、広大 ID と広大パスワードは適切に管理してください。

### (2) 掲示, 休講補講教室変更, 試験情報

各種通知やお知らせ掲示, 休講・補講, 試験情報やその他授業に関する連絡事項など、学生生活に関する多くの情報は「My もみじ」に掲示されます。重要な情報を見逃さないよう、毎日「My もみじ」にログインして確認してください。

### (3) 履修登録

学生は設定された期間に「My もみじ」から履修する科目を登録します。設定された期間以外は登録できません。登録可能な期間は「もみじ Top」でお知らせします。一部の授業では履修学生の調整を行うこともあるので、その指示に従ってください。「My もみじ」からシラバスを参照することもできます。(p. 教養15参照)

### (4) 学籍情報

所属, 住所, 父母等の住所, 電話番号などの情報が掲載されています。これらの情報はチューターの学生指導, 事務職員による緊急を要する場合の連絡などに利用するため、変更などがあった際には所属学部の学生支援室へ速やかに届け出てください。なお、メールアドレス, 携帯電話番号, 電話番号は, 学内ネットワーク (HINET2014) からアクセスしている場合「My もみじ」から変更可能です。

### (5) 成績

学生は各自の成績を参照することができます。学部によっては, チューター, 指導教員による面談及び承認が必要になります。(p. 教養19参照)

### (6) アンケート

「My もみじ」から簡単に回答できるアンケート機能があり, 授業改善につながる授業改善アンケートなどが行われます。

### (7) 「My もみじ」へのアクセス

「My もみじ」は, 学内外のネットワークに繋がったパソコン, タブレット端末及びスマートフォンからアクセスできます。なお, 学生情報, 成績情報等, 個人情報が含まれる情報は学内ネットワークを利用してアクセスした時のみ参照可能です。

### (8) 「学生情報の森 もみじ」の利用可能時間について

「学生情報の森 もみじ」は24時間利用できますが, メンテナンス等によりシステムを一時停止することがあります。その場合は, 「もみじ Top」の「システム運用のお知らせ」で通知します。

#### (9) その他の注意について

その他「My もみじ利用上の注意」を下記 URL に掲載しています。必ず一読した上でご利用ください。

<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/information/attention.html>

なお、もみじやEメールなどのネットワークを利用する上でのモラルや注意点については、「大学教育入門」の授業の中で説明があります。

また、学生生活の手引「コンピュータ関係のトラブル防止」にも記載されています。これらの内容をよく理解した上でパソコンやネットワークを利用してください。

## V. 試験及び成績

### 1. 期末試験

- a. 通常、15回の授業が実施された後に期末試験が行われます。すべての授業に出席することを心がけてください。
- b. 出席回数が授業実施時数の3分の2に満たない学生は、期末試験の受験を認めません。ただし、所定の手続を経て欠席した場合で、その理由が病気その他やむを得ない事情のときは、授業担当教員の判断により受験が認められることがあります。
- c. 試験実施日程や時間等の詳細については別途通知されます。

### 2. 試験時の主な注意事項

- a. 受験に際しては、必ず学生証を机の上に提示してください。
- b. 学生証を携帯していない学生は受験できませんので、試験開始前に所定の手続を行ってください。
- c. 遅刻した学生は、試験室の入室を許可されない場合があります。
- d. 試験開始後30分を経過しなければ、試験室からの退室は許可されません。
- e. 答案用紙は、試験室外へ持ち出すことはできません。
- f. 携帯電話・スマートフォン等のモバイル機器は電源を切り、カバンの中に入れておいてください。時計代わりに使用することはできません。
- g. 携帯電話・スマートフォン等試験に必要なものを机の上に置いたり、使用している場合は**不正行為**と認定する場合があります。
- h. その他、試験中は監督者の指示に従ってください。

### 3. 不正行為

教養教育科目の期末試験等で不正行為を行った学生は、その期に履修している教養教育科目（教養ゼミを除く）の評価をすべて「不可（D）」とし、あわせて「広島大学学生懲戒規則」により厳正な措置がとられます。

### 4. 追試験

病気その他やむを得ない事情により、期末試験等の一部ないし全部を受験できなかった場合は、追試験を受験することができます。追試験の受験を希望する場合は、所定の**追試験受験願**とその理由を客観的に証明する書類（診断書等）を添えて、当該授業科目の試験実施後1週間以内に所属学部の学生支援担当（法学部・経済学部夜間主コースの学生は東千田地区支援室（学生支援担当））へ申請してください。**追試験受験願**の受理以降は、授業担当教員の指示に従ってください。

詳細は、**広島大学教養教育科目履修規則**の第8条（p.教養30）を参照してください。



## 5. 試験等の特別措置

身体等の障害のために期末試験等を通常の条件のもとで受けることが難しい学生は、所属学部の学生支援担当に特別措置を申請することができます。

詳細については、「**身体等に障害のある学生に対する試験等における特別措置について**」(学部規則)を参照してください。

## 6. 成績

- a. 学業成績の評価は、試験、レポート及び授業への参加態度等によって判定します。成績は、別に定めるガイドラインに基づき、秀 (S)、優 (A)、良 (B)、可 (C) 及び不可 (D) の5段階で厳格に評価され、秀、優、良、可を合格とします。
- b. 成績の発表については、所属学部等の指示に従ってください。なお、ターム科目であってもセメスター科目と同時期に発表されます。
- c. 成績評価に疑義のある場合は、該当科目の授業担当教員に問い合わせるか、異議申立書を提出することで確認ができます。異議申立書を提出する場合は、成績発表日から次のタームの履修登録期間終了日までに「成績評価に対する異議申立書」に必要事項を記入し、学業成績証明書を添付の上、教育推進グループ教養教育担当(法学部・経済学部夜間主コースの学生は東千田地区支援室(学生支援担当))に申し出てください。

なお、詳細は下記 URL に掲載しています。

[https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/post\\_4.html](https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/post_4.html)

## VI. 平成31(2019)年度教養教育開設授業科目一覧

各科目の開講時期、開講キャンパス、授業内容等の詳細は、「教養教育科目授業時間割」及びシラバスなどで確認してください。

### 1. 昼間授業時間帯に開設する授業科目

科目区分		授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考	
平和科目		広島と平和	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	
		平和を考える	2	1	講義		
		ヒロシマ発平和学	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	
		平和と人間A-環境と生物の未来へ-	2	1	講義		
		平和と人間B-人間と文化の未来へ-	2	1	講義		
		平和と人間C-広島で学ぶ(原爆とは何だったか)-	2	1	講義		
		平和と人権-グローバル化とジェンダー視点	2	1	講義		
		原爆体験と表象/文学	2	1	講義		
		Global Partnership Studies	2	1	講義		
		ヒロシマ学	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	
		戦争と平和に関する学際的考察	2	1	講義		
		飢餓・貧困・環境問題からみた平和学	2	1	講義		
		環境と平和	2	1	講義		
		国際関係論	2	1	講義		
		医学からみた戦争と平和	2	1	講義		
		世界の紛争と平和	2	1	講義		
		国際政治と地球環境から見る平和	2	1	講義		
		平和と芸術	2	1	講義		
		暴力の比較宗教学	2	1	講義		
		核時代の科学と社会	2	1	講義		
		放射線と自然科学	2	1	講義		
		安全な社会環境の構築をめざして	2	1	講義		
		Global Issues Towards Peace A	2	1	講義		
		Global Issues Towards Peace B	2	1	講義		
		広島の世界と国際社会	2	1	講義		
		霞キャンパスからの平和発信	2	2	講義		
		ひろしま平和共生リーダー概論	2	1	講義		
平和への記憶学	2	1	講義				
大学教育基礎科目	大学教育入門	大学教育入門	2	1	講義		
	教養ゼミ	教養ゼミ	2	1	演習		
共通科目	領域科目	人文社会科学系科目群	哲学A	2	1	講義	
			哲学B	2	1	講義	
			感性哲学	2	1	講義	
			哲学の世界	2	1	講義	
			東洋の思想	2	1	講義	
			倫理学	2	1	講義	
			南アジア宗教論	2	1	講義	
			キリスト教学A	2	1	講義	
			キリスト教学B	2	1	講義	
			日本宗教論A	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。
			日本宗教論B	2	1	講義	
			比較宗教学	2	1	講義	
			芸術学A	2	1	講義	
			芸術学B	2	1	講義	
			現代アート論	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。
			日本の美学	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。

(注1) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する時期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

科目区分		授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考	
共通科目	領域科目	人文社会科学系科目群	合唱A	1	1	実習	
			合唱B	1	1	実習	
			吹奏楽I	1	1	実習	
			吹奏楽II	1	1	実習	
			アジアの近現代	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。
			アジアの社会史	2	1	講義	
			アジア史A	2	1	講義	
			アジア史B	2	1	講義	
			ヨーロッパの政治と社会	2	1	講義	
			ヨーロッパ史A	2	1	講義	
			ヨーロッパ史B	2	1	講義	
			広島大学の歴史	2	1	講義	
			生活から見た日本の近代	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。
			西アジア近現代史	2	1	講義	
			中東・イスラームの世界	2	1	講義	
			日本の歴史と文化	2	1	講義	
			日本現代史	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。
			日本史A	2	1	講義	
			日本史B	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。
			歴史学の世界	2	1	講義	
			科学と宗教	2	1	講義	
			科学史A	2	1	講義	
			科学史B	2	1	講義	
			技術史A	2	1	講義	
			技術史B	2	1	講義	
			環境観と環境問題	2	1	講義	
			観光地理学	2	1	講義	
			人文地理学	2	1	講義	
			地域地理学	2	1	講義	
			日本の地域地理学	2	1	講義	
			地理・考古・文化財の世界	2	1	講義	
			文化人類学A	2	1	講義	
			文化人類学B	2	1	講義	
			メディア学入門	2	1	講義	
			海外文化事情I	2	1	講義	
			海外文化事情II	2	1	講義	
			日本文化事情I	2	1	講義	
			日本文化事情II	2	1	講義	
			観光学入門	2	1	講義	
			人文学入門A	2	1	講義	
			人文学入門B	2	1	講義	
			英米文化事情概論I	1	1	演習	
			英米文化事情概論II	1	1	演習	
			英米文化事情概論III	1	2	演習	
			英米文化事情概論IV	1	2	演習	
			中国語圏の現代文化	2	1	講義	
			中国語圏の伝統文化	2	1	講義	
			英語圏の文学と社会	2	1	講義	
			西欧語圏の文学	2	1	講義	
			日本の文学	2	1	講義	
			文学の世界	2	1	講義	
			自動車産業と日本経済	2	1	講義	
			現代社会と経済	2	1	講義	
			グローバル経済と環境権	2	1	講義	
社会経済統計論	2	1	講義				
現代経済を考えるI	2	1	講義				
現代経済を考えるII	2	1	講義				
現代社会と福祉	2	1	講義				

(注1) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する時期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

科目区分		授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
共通科目	人文社会科学系 科目群	現代社会学A	2	1	講義	
		現代社会学B	2	1	講義	
		社会的なものと人間	2	1	講義	
		社会福祉と貧困	2	1	講義	
		生活をとるまく家族・地域・産業	2	1	講義	
		社会統計学入門	2	1	講義	
		現代社会と農山村	2	1	講義	
		現代ジャーナリズム論	2	1	講義	
		政治の世界	2	1	講義	
		人の生と死をめぐる法と社会	2	1	講義	
		日本国憲法	2	1	講義	
		Law and Politics I	2	1	講義	
		Law and Politics II	2	1	講義	
		日本法入門	1	1	講義	
		国際協力を考える	2	1	講義	
		行動の科学	2	1	講義	
		心と社会	2	1	講義	
		心の健康	2	1	講義	
		心理学概論 A	2	1	講義	
		心理学概論 B	2	1	講義	
		睡眠の科学	2	1	講義	
		比較認知心理学	2	1	講義	
		教育と人間	2	1	講義	
		教育と制度	2	1	講義	
		大学と学生	2	1	講義	
		大学と社会	2	1	講義	
		Multiculturalism in Education	2	1	講義	
		意思決定とクリティカルシンキング	2	1	講義	
	地域社会を学ぶ	2	1	講義		
	自然科学系科目群	知識基盤社会における情報検索入門	2	1	講義	
		コンピュータ・プログラミング	2	1	講義	
		思考と情報のデザイン	2	1	講義	
		メディア活用研究	2	2	講義	平成31(2019)年度は開講しません。
		知能とコンピュータ	2	1	講義	
		数学の世界	2	1	講義	
		数理学で考える	2	1	講義	
		自然環境形成論	2	1	講義	
		自然災害と防災	2	1	講義	
		水・物質循環の科学	2	1	講義	
		物質循環と地球環境	2	1	講義	
		地球と生物	2	1	講義	
		地球科学 A	2	1	講義	
		地球科学 B	2	1	講義	
		天文学	2	1	講義	
		物質とエネルギー	2	1	講義	
		物理の視点 A	2	1	講義	
物理の視点 B		2	1	講義		
物理入門	2	1	講義			
物理数学入門	2	1	講義			
物理学の原理	2	1	講義			
物理学の手法	2	1	講義			
新入生のための物理学入門	2	1	講義			
いのちを支える酵素	2	1	講義			
環境と化学	2	1	講義			
文理科学コラボレーション	2	1	講義			
現代化学	2	1	講義			
化学基礎 A	2	1	講義			
化学基礎 B	2	1	講義			

(注1) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する時期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

科目区分		授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考			
領域科目	自然科学系科目群	機械工学入門	2	1	講義				
		応用化学・化学工学・生物工学序論	2	1	講義				
		産業と技術	2	1	講義				
		乗り物と輸送の科学	2	1	講義				
		機械システムの設計と最適化	2	1	講義				
		社会の中における工学	2	1	講義				
		燃料・燃焼と現代社会	2	1	講義				
		生物の世界	2	1	講義				
		生物学からみたストレス	2	1	講義				
		釣りの科学・魚と人間のインターアクション	2	1	講義				
		適応の生理	2	1	講義				
		微生物の世界	2	1	講義				
		生物学入門	2	1	講義				
		カエルから見た生命システム	2	1	講義				
		脳と行動	2	1	講義				
		分子から生命へ	2	1	講義				
		フィールド科学入門	2	1	講義				
		食の安心・安全と健康科学	2	1	講義				
		生物生産と自然との関わり	2	1	講義				
		生命・食・環境のサイエンス	2	1	講義				
		大地と家畜からのめぐみ(農場体験)	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。			
		環境と開発	2	1	講義				
		環境と森林	2	1	講義				
		東広島キャンパスの自然環境管理	2	1	講義				
		自然科学研究の倫理と法令	2	1	講義				
		社会医学と疾病対策	2	1	講義				
		脳のはたらき	2	1	講義				
		全身の健康と口腔科学Ⅰ	2	1	講義				
		全身の健康と口腔科学Ⅱ	2	1	講義				
		人の健康と社会	2	1	講義				
		ヒトと微生物の関わり	2	1	講義				
		共通科目	英語	コミュニケーション基礎	1	1	1	演習	
				コミュニケーション基礎Ⅱ	1	1	1	演習	
				コミュニケーションⅠ	3(1)	1	1	演習	
				コミュニケーションⅠB	3(1)	1	1	演習	
				コミュニケーションⅡ	3(1)	1	1	演習	
コミュニケーションⅡB	3(1)			1	1	演習			
コミュニケーションⅢ	1		2	1	演習				
コミュニケーションⅢB	1		2	1	演習				
コミュニケーションⅢC	1		2	1	演習				
英語圏フィールドリサーチ	4(1~4)		1	1	演習				
オンライン英語演習Ⅰ	1		1	1	演習				
オンライン英語演習Ⅱ	1		1	1	演習				
オンライン英語演習Ⅲ	1		1	1	演習				
コミュニケーション演習Ⅰ	1		1	1	演習				
コミュニケーション演習Ⅱ	1		1	1	演習				
コミュニケーション上級英語	2(1)		1	1	演習				
初修外国語	ベーシック外国語		ベーシック・ドイツ語Ⅰ	1	1	1	演習		
			ベーシック・ドイツ語Ⅱ	1	1	1	演習		
		ベーシック・ドイツ語Ⅲ	1	1	1	演習			
		ベーシック・ドイツ語Ⅳ	1	1	1	演習			
		ベーシック・フランス語Ⅰ	1	1	1	演習			
		ベーシック・フランス語Ⅱ	1	1	1	演習			
		ベーシック・フランス語Ⅲ	1	1	1	演習			
		ベーシック・フランス語Ⅳ	1	1	1	演習			
		ベーシック・スペイン語Ⅰ	1	1	1	演習			
		ベーシック・スペイン語Ⅱ	1	1	1	演習			
		ベーシック・スペイン語Ⅲ	1	1	1	演習			

(注1) 開設単位数(修得可能な上限単位数)と開講単位数(1科目当たりの単位数)が異なる授業科目については、( )で開講単位数を表示している。

(注2) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する時期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

科目区分		授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考	
共通科目	外国語科目	ベーシック外国語	ベーシック・スペイン語Ⅳ	1	1	演習	
			ベーシック・ロシア語Ⅰ	1	1	演習	
			ベーシック・ロシア語Ⅱ	1	1	演習	
			ベーシック・ロシア語Ⅲ	1	1	演習	
			ベーシック・ロシア語Ⅳ	1	1	演習	
			ベーシック・アラビア語Ⅰ	1	1	演習	
			ベーシック・アラビア語Ⅱ	1	1	演習	
			ベーシック・アラビア語Ⅲ	1	1	演習	
			ベーシック・アラビア語Ⅳ	1	1	演習	
			ベーシック中国語Ⅰ	1	1	演習	
			ベーシック中国語Ⅱ	1	1	演習	
			ベーシック中国語Ⅲ	1	1	演習	
			ベーシック中国語Ⅳ	1	1	演習	
			ベーシック韓国語Ⅰ	1	1	演習	
			ベーシック韓国語Ⅱ	1	1	演習	
			ベーシック韓国語Ⅲ	1	1	演習	
		ベーシック韓国語Ⅳ	1	1	演習		
		インテンシブ外国語	インテンシブ・ドイツ語ⅠA	1	1	演習	
			インテンシブ・ドイツ語ⅠB	1	1	演習	
			インテンシブ・ドイツ語ⅡA	1	1	演習	
			インテンシブ・ドイツ語ⅡB	1	1	演習	
			インテンシブ・フランス語ⅠA	1	1	演習	
			インテンシブ・フランス語ⅠB	1	1	演習	
			インテンシブ・フランス語ⅡA	1	1	演習	
			インテンシブ・フランス語ⅡB	1	1	演習	
			インテンシブ・スペイン語ⅠA	1	1	演習	
			インテンシブ・スペイン語ⅠB	1	1	演習	
			インテンシブ・スペイン語ⅡA	1	1	演習	
	インテンシブ・スペイン語ⅡB		1	1	演習		
	インテンシブ中国語	インテンシブ中国語ⅠA	1	1	演習		
		インテンシブ中国語ⅠB	1	1	演習		
		インテンシブ中国語ⅡA	1	1	演習		
		インテンシブ中国語ⅡB	1	1	演習		
		インテンシブ韓国語ⅠA	1	1	演習		
		インテンシブ韓国語ⅠB	1	1	演習		
		インテンシブ韓国語ⅡA	1	1	演習		
		インテンシブ韓国語ⅡB	1	1	演習		
	海外語学演習	海外語学演習（ドイツ語）	4（1～4）	1	演習		
		海外語学演習（フランス語）	4（1～4）	1	演習		
		海外語学演習（スペイン語）	4（1～4）	1	演習		
		海外語学演習（ロシア語）	4（1～4）	1	演習		
		海外語学演習（中国語）	4（1～4）	1	演習		
		海外語学演習（韓国語）	4（1～4）	1	演習		
	情報科目	情報活用基礎	2	1	演習		
		情報活用演習	2	1	演習		
	健康スポーツ科目	健康スポーツ科学	2	1	講義		
		スポーツ実習A	(1)	1	実習		
スポーツ実習B		(1)	1	実習			
スポーツ演習		(1)	1	講義・実習	授業10時間と実習10時間の授業で1単位とする。		
社会連携科目	学生生活概論-生き方と暮らし方のヒント-	2	1	講義			
	障害学生支援ボランティア実習A	1	1	実習			
	障害学生支援ボランティア実習B	1	1	実習			
	INU 特別協力講義	2	1	講義			
	INU 特別集中講義	2	1	講義			
	ジェンダーと社会	2	1	講義			
	キャリアデザイン概論	2	1	講義			
職業選択と自己実現-自分のキャリアをデザインしよう-	2	1	講義				

(注1) 開設単位数（修得可能な上限単位数）と開講単位数（1科目当たりの単位数）が異なる授業科目については、（ ）で開講単位数を表示している。なお、スポーツ実習A、スポーツ実習B及びスポーツ演習については、開講単位数のみ設定している（上限単位数の設定なし）。

(注2) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する時期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。



科目区分		授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
共通科目	社会連携科目	実践フロンティアプログラム	2 (1)	1	演習	
		地域社会探検プロジェクト-インターンシップ・ボランティアを体験してみよう-	2	1	講義・実習	講義20時間と実習30時間の授業で2単位とする。
		キャリア教養講座-世界に通用する高い社会人を身につける-	2	1	講義	
		キャリアデザイン講座-先輩プロフェッショナルが「あなたの未来」のために語る-	2	1	講義	
		現代霞が関論 A	1	1	講義	
		現代霞が関論 B	1	1	講義	
		学術的文章作成の基礎	1	1	講義	
		アカデミックライティング基礎	1	2	講義	
		アントレプレナーシップ	2	1	講義	
		海外フィールドスタディ	4 (2)	1	講義・演習	講義20時間と演習44時間の授業で2単位とする。
海外フィールドスタディ・アドバンスト	4 (2)	1	講義・演習	講義20時間と演習44時間の授業で2単位とする。		
基盤科目	ミクロ経済学入門	2	1	講義		
	マクロ経済学入門	2	1	講義		
	医療従事者のための心理学	2	1	講義		
	ヘルスサイエンスのための基盤数学	2	1	講義		
	基礎微分積分学	2	1	講義		
	基礎線形代数学	2	1	講義		
	微分積分通論	2	1	講義		
	微分積分学 I	2	1	講義		
	微分積分学 II	2	1	講義		
	数学演習 I	1	1	演習		
	数学演習 II	1	1	演習		
	線形代数学 I	2	1	講義		
	線形代数学 II	2	1	講義		
	線形代数学演習 I	1	1	演習		
	線形代数学演習 II	1	1	演習		
	統計学	2	1	講義		
	統計データ解析	2	1	講義		
	地学実験法・同実験 I	1	1	講義・実験	講義 8 時間と実験24時間の授業で1単位とする。	
	地学実験法・同実験 II	1	1	講義・実験	講義 8 時間と実験24時間の授業で1単位とする。	
	初修物理学	2	1	講義		
	基礎物理学 I	2	1	講義		
	基礎物理学 II	2	1	講義		
	一般力学 I	2	1	講義		
	一般力学 II	2	1	講義		
	基礎電磁気学	2	1	講義		
	物理学実験法・同実験 I	1	1	講義・実験	講義 8 時間と実験24時間の授業で1単位とする。	
	物理学実験法・同実験 II	1	1	講義・実験	講義 8 時間と実験24時間の授業で1単位とする。	
	初修化学	2	1	講義		
	一般化学	2	1	講義		
	有機化学	2	1	講義		
	基礎物理化学	2	1	講義		
	化学実験法・同実験 I	1	1	講義・実験	講義 8 時間と実験24時間の授業で1単位とする。	
化学実験法・同実験 II	1	1	講義・実験	講義 8 時間と実験24時間の授業で1単位とする。		
初修生物学	2	1	講義			
細胞科学	2	1	講義			
生態学	2	1	講義			
種生物学	2	1	講義			

(注1) 開設単位数(修得可能な上限単位数)と開講単位数(1科目当たりの単位数)が異なる授業科目については、( )で開講単位数を表示している。

(注2) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する時期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

科目区分	授業科目	開設単位数	開設年次	授業の方法	備考
基盤科目	生物学実験法・同実験Ⅰ	1	1	講義・実験	講義8時間と実験24時間の授業で1単位とする。
	生物学実験法・同実験Ⅱ	1	1	講義・実験	講義8時間と実験24時間の授業で1単位とする。
	人間理解のための人体解剖学Ⅰ	1	1	講義	
	人間理解のための人体解剖学Ⅱ	1	1	講義	
	国際医学連携開発学	2	1	講義	
	自然科学基礎実験法・同実験A	1	1	講義・実験	講義8時間と実験24時間の授業で1単位とする。
	自然科学基礎実験法・同実験B	1	1	講義・実験	講義8時間と実験24時間の授業で1単位とする。

(注1) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する時期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

## 2. 夜間授業時間帯に開設する授業科目

科目区分		授業科目	開設 単位数	開設 年次	授業の 方法	備考	昼間授業時間帯 開設授業科目		
平和科目		平和と人間Cー広島で学ぶ (原爆とは何だったか)ー	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	平和と人間Cー広島で学ぶ (原爆とは何だったか)ー		
		平和と人間Dー広島から 未来に向けてー	2	1	講義		(対応科目なし)		
		ヒロシマ発平和学	2	1	講義		ヒロシマ発平和学		
大学教育 基礎科目	大学教育入門 教養ゼミ	大学教育入門	2	1	講義		(対応科目なし)		
		教養ゼミ	2	1	演習		(対応科目なし)		
共通科目	領域 科目	人文社会科学 系科目群	哲学A	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	哲学A	
			倫理学	2	1	講義		倫理学	
			宗教学	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	(対応科目なし)	
			アジア史A	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	アジア史A	
			アジア史B	2	1	講義		アジア史B	
			ヨーロッパ史A	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	ヨーロッパ史A	
			科学技術史	2	1	講義		(対応科目なし)	
			地域地理学	2	1	講義		地域地理学	
			日本史A	2	1	講義		日本史A	
			日本史B	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	日本史B	
			文化人類学	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	文化人類学A	
			日本の文学	2	1	講義		日本の文学	
			世界の文学(西洋文学)	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	西欧語圏の文学	
			世界の文学(東洋文学)	2	1	講義		中国語圏の現代文化	
			マネジメント概論	2	1	講義		(対応科目なし)	
			社会学の視点	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	現代社会学A	
			政治の世界	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	政治の世界	
			日本国憲法	2	1	講義		日本国憲法	
			心理学概論A	2	1	講義		心理学概論A	
			心理学概論B	2	1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	心理学概論B	
			自然科学系科目群	統計学への招待	2	1	講義		統計データ解析
	資源と生活	2		1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	(対応科目なし)		
	地球とその環境	2		1	講義		(対応科目なし)		
	物理入門	2		1	講義		物理入門		
	化学と人間	2		1	講義		(対応科目なし)		
	食文化論	2		1	講義		(対応科目なし)		
	生物学	2		1	講義	平成31(2019)年度は開講しません。	(対応科目なし)		
	外国 語 科目	英語 基礎	コミュニケーション基礎I	1	1	演習		コミュニケーション基礎I	
			コミュニケーション基礎II	1	1	演習		コミュニケーション基礎II	
			コミュニケーションI A	3(1)	1	演習		コミュニケーションIA	
		英語 I	コミュニケーションI B	3(1)	1	演習		コミュニケーションIB	
			コミュニケーションII A	3(1)	1	演習		コミュニケーションIIA	
		英語 II	コミュニケーションII B	3(1)	1	演習		コミュニケーションIIB	
			コミュニケーションIII A	1	2	演習		コミュニケーションIIIA	
		英語 III	コミュニケーションIII B	1	2	演習		コミュニケーションIIIB	
			コミュニケーションIII C	1	2	演習	平成31(2019)年度は開講しません。	コミュニケーションIIIC	
		初修 目 外国 語	ベーシック外国語	ベーシック・ドイツ語I	2(1)	1	演習		ベーシック・ドイツ語I
				ベーシック・ドイツ語II	2(1)	1	演習		ベーシック・ドイツ語II
				ベーシック・ドイツ語III	2(1)	1	演習		ベーシック・ドイツ語III
				ベーシック・ドイツ語IV	2(1)	1	演習		ベーシック・ドイツ語IV
				ベーシック・フランス語I	2(1)	1	演習		ベーシック・フランス語I
				ベーシック・フランス語II	2(1)	1	演習		ベーシック・フランス語II
ベーシック・フランス語III	2(1)			1	演習		ベーシック・フランス語III		
ベーシック・フランス語IV	2(1)			1	演習		ベーシック・フランス語IV		
ベーシック中国語I	2(1)			1	演習		ベーシック中国語I		
ベーシック中国語II	2(1)			1	演習		ベーシック中国語II		
ベーシック中国語III	2(1)			1	演習		ベーシック中国語III		
ベーシック中国語IV	2(1)			1	演習		ベーシック中国語IV		
情報科目	情報活用概論	2	1	講義		(対応科目なし)			
健康スポーツ科目	健康スポーツ科学	2	1	講義		健康スポーツ科学			
	スポーツ実習A	(1)	1	実習		スポーツ実習A			
	スポーツ演習	(1)	1	講義・実習	平成31(2019)年度は開講しません。	スポーツ演習			

科目区分		授業科目	開設 単位数	開設 年次	授業の 方法	備考	昼間授業時間帯 開設授業科目
共通科目	社会連携科目	キャリアデザイン概論	2	1	講義		キャリアデザイン概論
		職業選択と自己実現—自分のキャリアをデザインしよう—	2	1	講義		職業選択と自己実現—自分のキャリアをデザインしよう—
基盤科目		経済学入門	2	1	講義		(対応科目なし)
		経営学入門	2	1	講義		(対応科目なし)
		微分積分通論	2	1	講義		微分積分通論
		基礎線形代数学	2	1	講義		基礎線形代数学

(注1) 本表は平成31(2019)年度入学生が「平成31(2019)年度教養教育開設授業科目一覧」の「1. 昼間授業時間帯に開設する授業科目」に記載されている授業科目を履修した場合の対応表を兼ねる。本表の「昼間授業時間帯開設授業科目」に記載されている授業科目を履修した場合は、左欄の授業科目を履修したものとみなされる。

(注2) 開設単位数(修得可能な上限単位数)と開講単位数(1科目当たりの単位数)が異なる授業科目については、( )で開講単位数を示している。なお、スポーツ実習A及びスポーツ演習については、開講単位数のみ設定している(上限単位数の設定なし)。

(注3) 各授業科目は、開設年次欄に記載する年次から履修することが可能である。なお、実際に開講する時期については、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等に示す。

## Ⅶ. 教養教育関係規則等

### 1. 広島大学教養教育科目履修規則

平成23年2月15日規則第3号

(趣旨)

第1条 この規則は、広島大学通則（平成16年4月1日規則第2号）第19条第3項の規定に基づき、広島大学における教養教育科目の履修等に関し必要な事項を定めるものとする。

(科目区分及び教育目標)

第2条 教養教育科目の科目区分及び教育目標は、次の表に掲げるとおりとする。

科目区分		教育目標
平和科目		戦争・紛争，核廃絶，貧困，飢餓，人口増加，環境，教育，文化等の様々な観点から平和について自ら考え，理解を深める。
大学教育基礎科目	大学教育入門	大学で学ぶことの意義と目標を理解し，大学で学ぶ上で基本となる技能や態度を身につける。
	教養ゼミ	人類や社会が抱えてきた歴史的，現代的な課題に対して，証拠に基づき論理的に考え批判的に自身の思考を吟味する能力と，適切に自己表現を行う能力を身につける。
共通科目	領域科目	人間が蓄積してきた知識がどのようにして生まれ，育ってきたのか，その根本の考え方は何であるのかについて，文化的・社会的・自然科学的な視点を踏まえながら，専門分野の枠を超えて共通に求められる知的な技法を学ぶ。
	外国語科目	グローバル化時代に対応するため，様々な外国語で情報を受信し，発信できるコミュニケーション能力を養成し，知識・技能を修得するとともに，異なる言語や文化に対する理解を深める。
	情報科目	高度情報化社会の中で情報及びコンピュータを活用していくのに必要となる基礎的な知識や技能を修得し，その有用性と問題点，情報倫理上の課題を理解し，活用する能力を身につける。
	健康スポーツ科目	体力・健康づくりのための科学的理論を修得するとともに，自己の特性やスポーツの技能水準に適合したスポーツの実践を通じて，生涯にわたってスポーツを楽しむ態度・マナーや協調性などの社会的技能を修得する。
	社会連携科目	社会における多様性を理解し，実践することを通して，社会で生き，活躍するために必要な力を高める。
基盤科目		専門教育との有機的関連性を持つ前専門教育として，それぞれの専門分野を学ぶために必要な基礎的知識の学習により，基礎学問の論理的骨格や体系及び学問形成に必要な知識・技術を修得する。

(授業科目及び単位数等)

第3条 教養教育科目として開設する授業科目（以下「授業科目」という。），単位数等は，別表のとおりとする。

2 授業時間割は，学年の始めに発表する。

(履修方法)

第4条 教養教育科目の履修方法については，各学部細則の定めるところによる。

(単位数の計算の基準)

第5条 授業科目の単位数は、授業の方法に応じ、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義は、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習及び実習は、30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験は、45時間の授業をもって1単位とする。

2 一の授業科目について、二以上の方法の併用により授業を行う場合の単位数の計算は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとなるよう、前項の基準を考慮してそれらの方法ごとに時間を定めるものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、次の各号に掲げるものについては、当該各号に定めるところによる。

- (1) 教養ゼミは、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 情報科目の情報活用基礎及び情報活用演習は、15時間の授業をもって1単位とする。

(履修手続)

第6条 学生は、授業科目を履修しようとするときは、毎学期指定する期間中に所定の手続をしなければならない。ただし、受講者数の制限等を行う授業科目にあつては、所定の手続を経た場合であっても履修が認められない場合がある。

2 前項本文に規定する所定の手続をしなかった場合は、当該授業科目の履修を認めない。ただし、特別の事由がある場合に限り、当該授業科目担当教員の承認を経て、履修を認めることがある。

3 既に単位を修得した授業科目については、原則として履修することができない。

(試験)

第7条 試験は、原則としてターム末に行う。ただし、授業科目によりレポート又は平常の成績をもって試験の成績に代えることがある。

2 試験の方法及び期日は、あらかじめ発表する。

3 授業実施時数の3分の2以上の出席を満たさない場合は、受験を認めない。ただし、所定の手続を経て欠席した場合で、その欠席が病気その他のやむを得ない事由によると認められるときは、当該授業科目担当教員の判断によるものとする。

(追試験)

第8条 次の各号のいずれかの理由により試験を受けることができなかった者は、追試験を受けることができる。

- (1) 配偶者又は3親等内の親族の死亡による忌引
- (2) 負傷又は疾病（入院又はこれに準ずる場合に限る。）
- (3) 天災その他の非常災害
- (4) 交通機関の突発事故
- (5) その他やむを得ない事情

2 追試験を受けようとする者は、原則として当該授業科目の試験実施後1週間以内に、所定の追試験受験願を所属学部長に願い出なければならない。

3 追試験受験を許可された者は、原則として当該授業科目担当教員の指定する日時に追試験を受験しなければならない。

4 追試験の実施期間は、当該授業科目の試験実施後3週間以内とする。



(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、教養教育科目の履修等に関し必要な事項は、教育本部が定める。

(略)

附 則

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成30年度以前に入学した学生の教養教育科目の授業科目については、この規則による改正後の広島大学教養教育科目履修規則（以下「新規則」という。）の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、教育上有益と認めるときは、教育本部の定めるところにより、新規則に規定する授業科目の履修を認める場合がある。

別表（略）

※別表の内容は、「平成31(2019)年度教養教育科目開設授業科目一覧」(p. 教養20～p. 教養28)として掲載しています

## 2. 外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて

広島大学通則（以下「通則」という。）第30条第1項及び第31条第2項に規定するその  
他文部科学大臣が別に定める学修のうち、実用英語技能検定、TOEFL(R)及びTOEIC(R)  
の検定試験等による単位認定については、次のとおり取り扱うものとする。

### (1) 認定の対象となる外国語技能検定試験等

- ① 実用英語技能検定試験（英検）
- ② TOEFL(R)テスト
- ③ TOEIC(R)公開テスト及び広島大学外国語教育研究センターが認める TOEIC(R)IP テスト

### (2) 認定授業科目及び単位数

- ① 実用英語技能検定試験（英検）

級 位	認 定 授 業 科 目	認 定 単 位 数
1 級	コミュニケーション基礎・演習	2単位以内
	コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ	6単位以内
準1級	コミュニケーション基礎・演習	2単位以内
	コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ	4単位以内

- ② TOEFL(R)テスト

得 点		認 定 授 業 科 目	認 定 単 位 数
Paper-Based	Internet-Based		
560点以上	83点以上	コミュニケーション基礎・演習	2単位以内
		コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ	6単位以内
520点以上 560点未満	68点以上 83点未満	コミュニケーション基礎・演習	2単位以内
		コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ	4単位以内

※本学で実施する TOEFL ITP(R)テストの得点は、表中の Paper-Based の得点に読み替えて認定する。

- ③ TOEIC(R)公開テスト及び広島大学外国語教育研究センターが認める TOEIC(R)IP テスト

得 点	認 定 授 業 科 目	認 定 単 位 数
860点以上	コミュニケーション基礎・演習	2単位以内
	コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ	6単位以内
730点以上 860点未満	コミュニケーション基礎・演習	2単位以内
	コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ	4単位以内

(注)・TOEIC(R)は、TOEIC(R) Listening & Reading Test を示す。

- ・コミュニケーション基礎は、コミュニケーション基礎Ⅰ、コミュニケーション基礎Ⅱの授業科目を示す。
- ・コミュニケーション演習は、コミュニケーション演習Ⅰ、コミュニケーション演習Ⅱの授業科目を示す。
- ・コミュニケーションⅠ・Ⅱは、コミュニケーションⅠA、コミュニケーションⅠB、コミュニケーションⅡA、コミュニケーションⅡBの授業科目を示す。
- ・コミュニケーションⅢは、コミュニケーションⅢA、コミュニケーションⅢB、コミュニケーションⅢCの授業科目を示す。

### (3) 単位認定の申請方法及び範囲

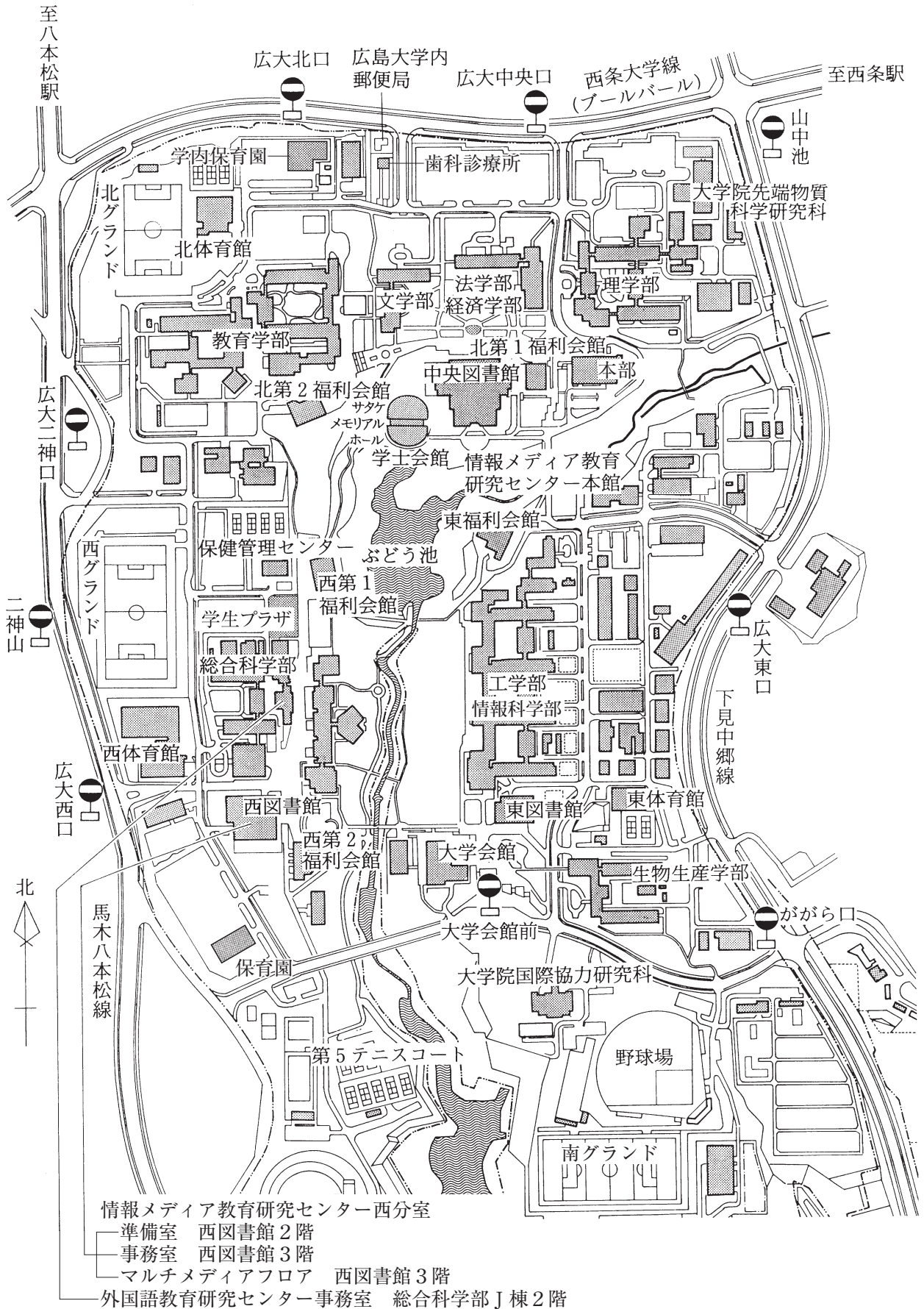
- ① 入学前に所定の級位又は点数を得た者で、通則第31条第2項の規定に基づき単位認定を受けようとするものは、広島大学既修得単位等の認定に関する細則に定める既修得単位等認定願に代えて、外国語技能検定試験等による単位認定申請書（指定様式）に、原則として認定証又は得点証明書の原本を添えて、所属する学部に申請する。
- ② 入学後に所定の級位又は点数を得た者で、通則第30条第1項の規定に基づき単位認定を受けようとするものは、各セメスターの授業開始後2週間以内に、外国語技能検定試験等による単位認定申請書に、原則として認定証又は得点証明書の原本を添えて、所属する学部に申請する。
- ③ 申請時に単位を修得していない授業科目についてのみ、申請を認める。
- ④ 認定は単位のみとし、成績評価は付さない。
- ⑤ 各授業科目の認定単位数は、1単位を限度とする。
- ⑥ 申請の際現に履修登録している授業科目の認定を希望する場合は、当該授業科目の登録内容の変更について、「単位不要」又は「履修取消」のいずれかから選択する。

### (4) 適用

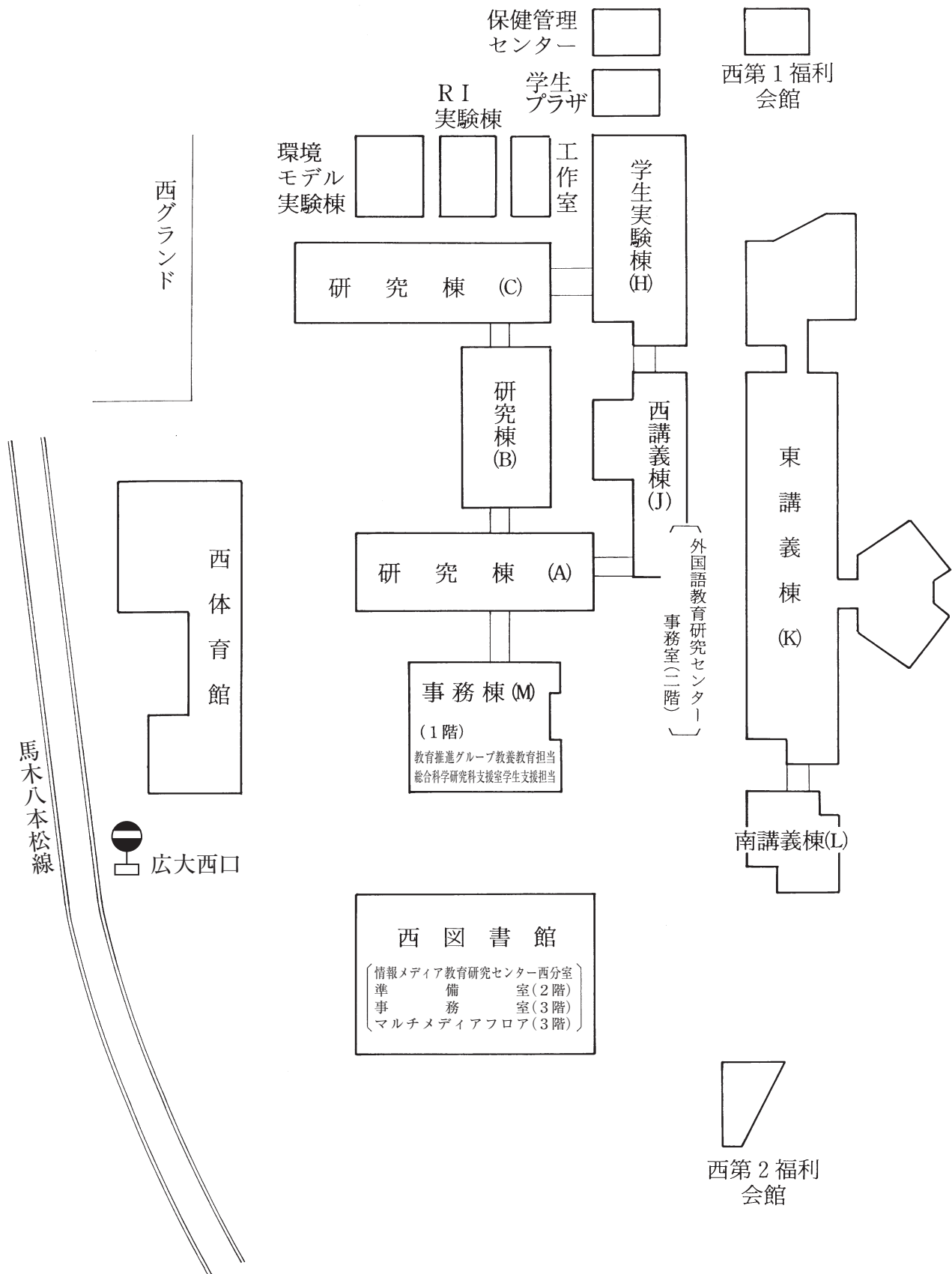
- ① この取扱いは、平成29年度の入学生から適用する。
- ② 平成28年度以前に入学した学生の外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについては、この取扱いの規定にかかわらず、なお従前の例による。

# VII. 配置図等

## 1. 東広島キャンパス配置図

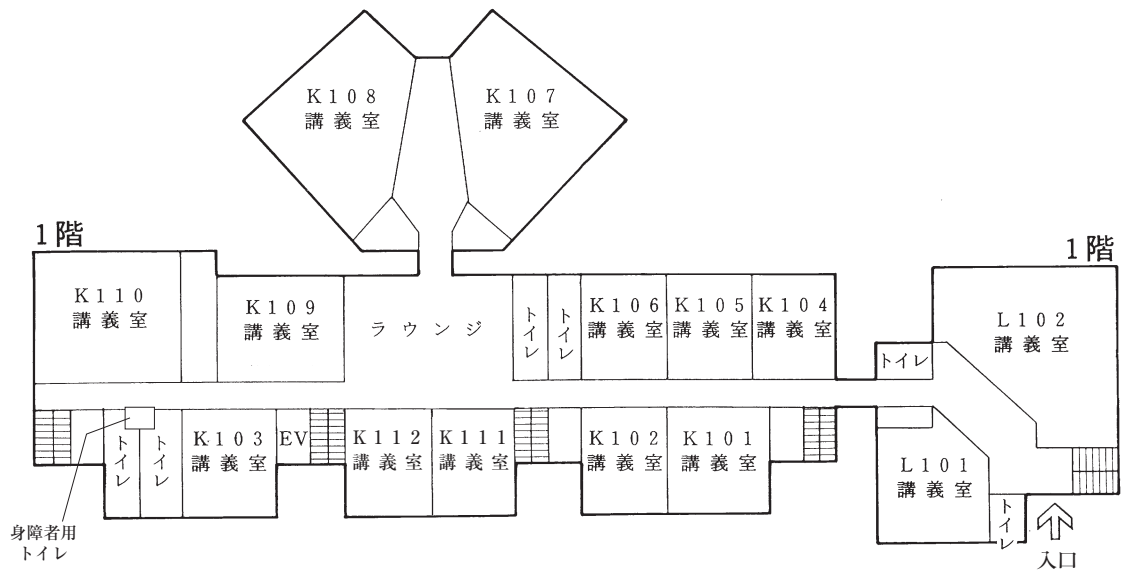
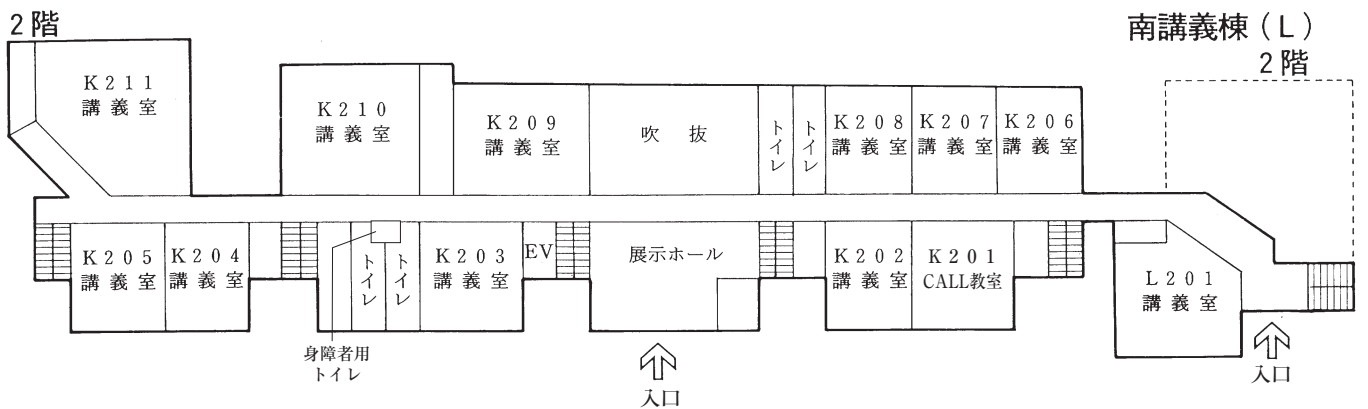
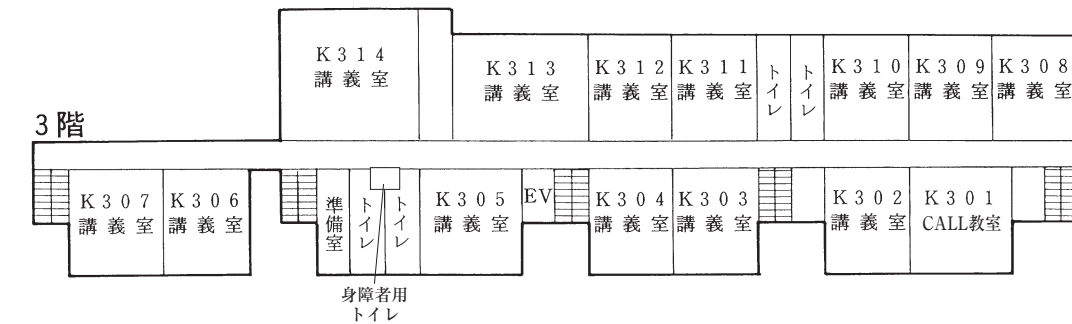


## 2. 総合科学部付近配置図



### 3. 総合科学部講義室配置図

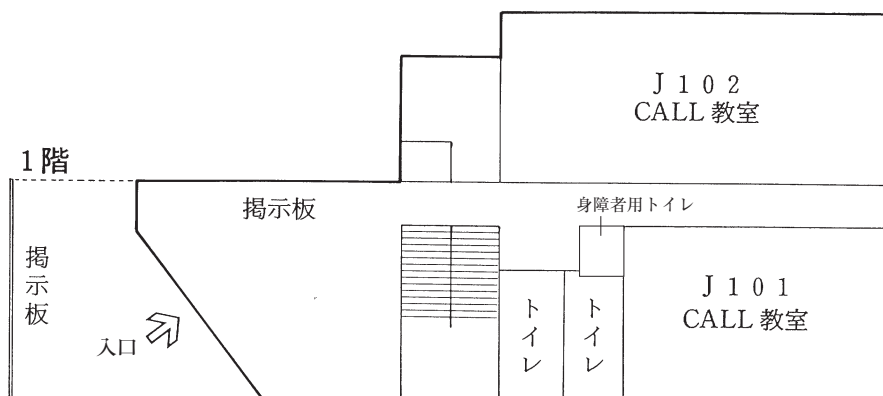
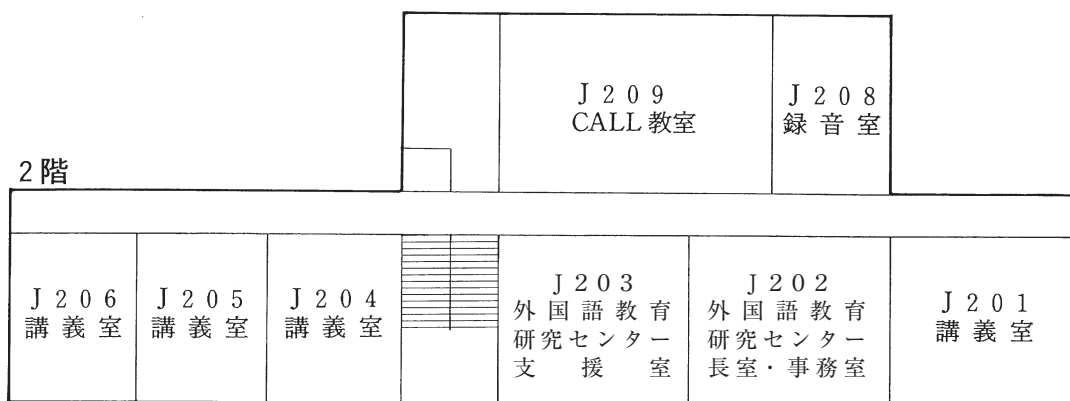
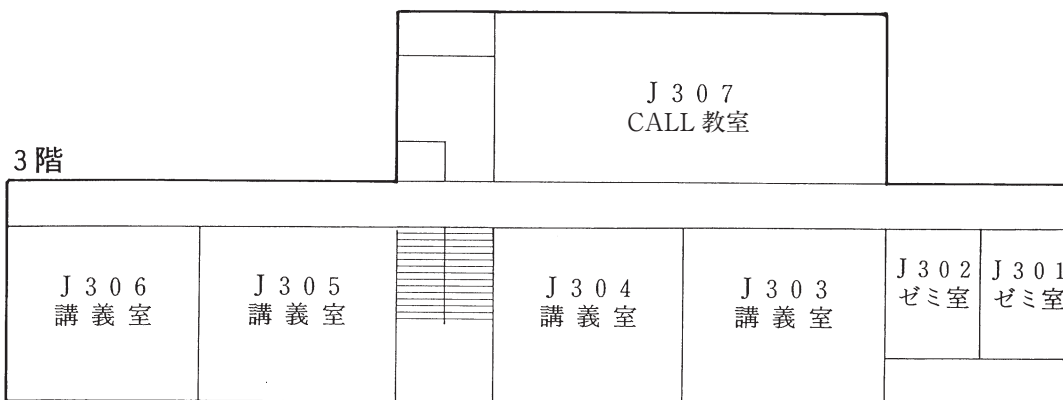
#### 東講義棟 (K)



EV…エレベーター



## 西講義棟 (J)



## 学生実験棟 (H)

### 3階

	トイレ		H307 大学院 最先端 設備室	H306 大学院 最先端 設備室	H305 化学準備室	H304 化学実験室 I
	トイレ					
H303 ドラフト 室			H302 化学実験室 II			H301 化学実験室 III

### 2階

	トイレ		H210 地学標本室	H209 地学準備 室	H208 地学薄片 室	H207 地学機械 室	H205 生物学 標本室	H204 生物学実験室 I
	トイレ							
H211 アクセシビリティセンター 研究 / 実験室			H206 地学実験室			H203 化学実験 準備室	H202 生物学 準備室	H201 生物学実験室 II

### 1階

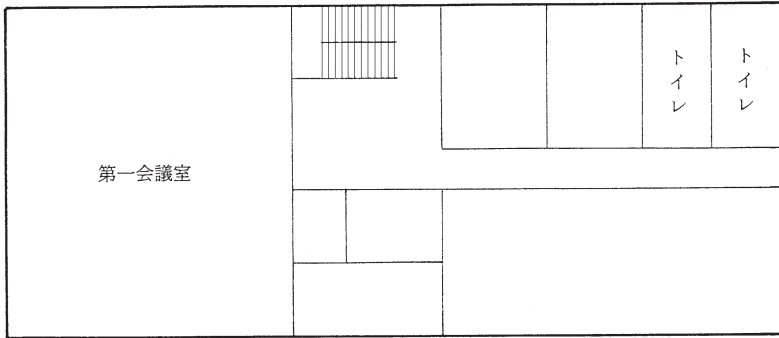
	トイレ		H108 物理学実験室 I			H107 分光実験 室	H106 物理学実験室 III	H105 レーザー 実験室
	トイレ							
H110 ゼミ室 II	H109 ゼミ室 I		H104 物理学実験室 II			H103 物理学 準備室 I	H102 物理学実験室 IV	H101 計算機 実験室

### 地階

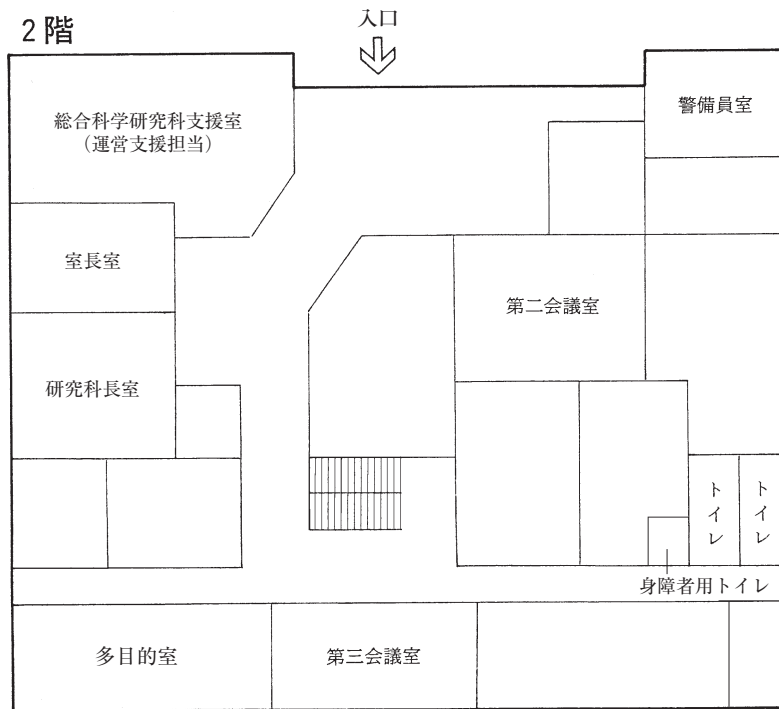
		HB06 物理学準備室 II		HB05 X線実験室	
	トイレ			HB04 物理暗室	HB03 X線実験 準備室
	トイレ				
↑ 入口			HB02 比電荷 実験室	HB01 万有引力 実験室	

# 事務棟 (M)

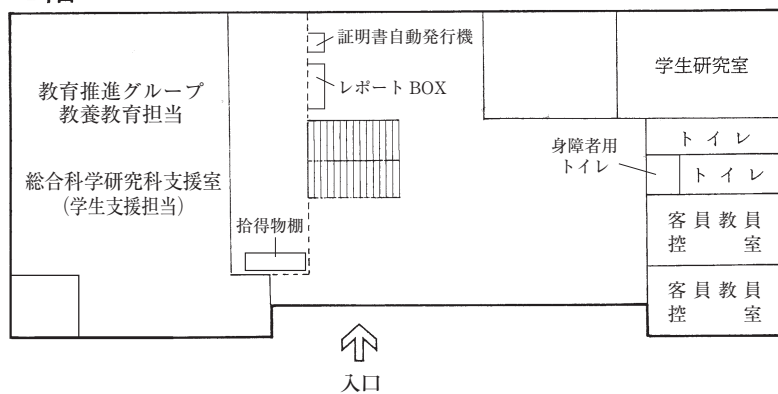
## 3階



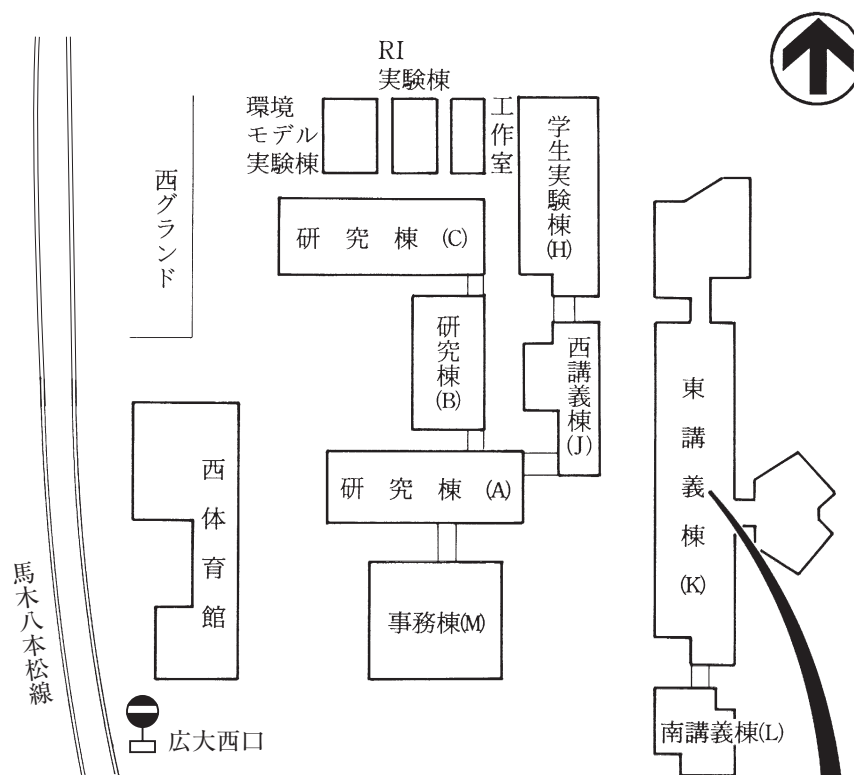
## 2階



## 1階



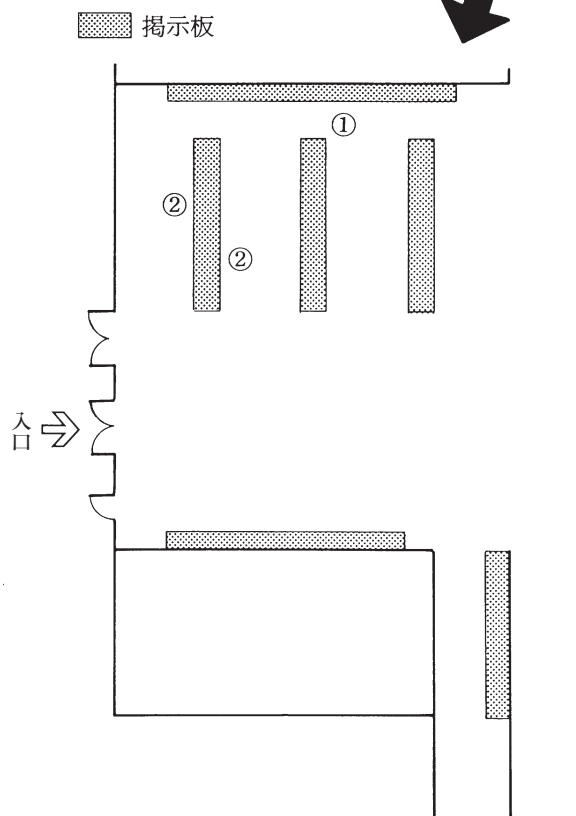
#### 4. 教養教育に関する掲示板位置図（東広島キャンパス）



掲示板（東講義棟(K) 2階）拡大図

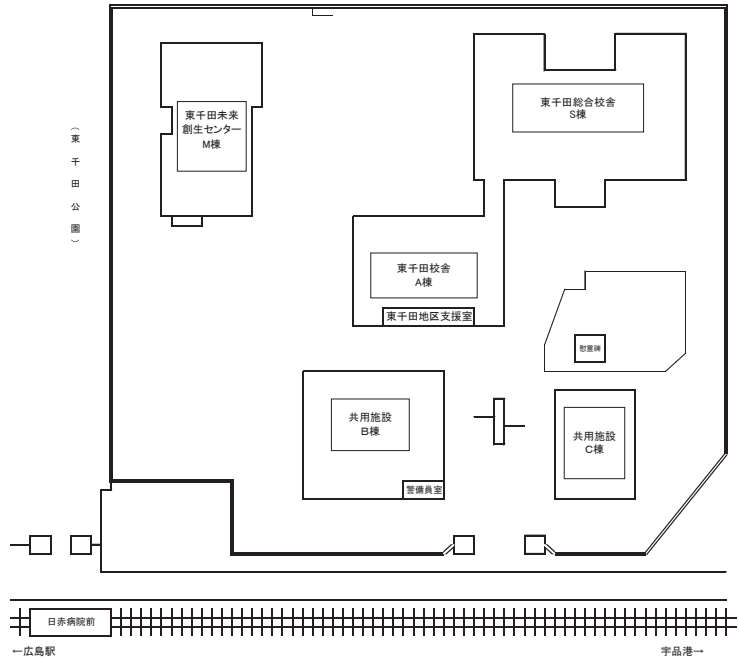
- ① 一般情報
- ② 講義情報

※なお、教養教育科目の休講・補講・期末試験日程等の講義情報は、掲示ではなく「My もみじ」で通知します。詳しくは p.教養16「学生情報の森もみじについて」をご覧ください。

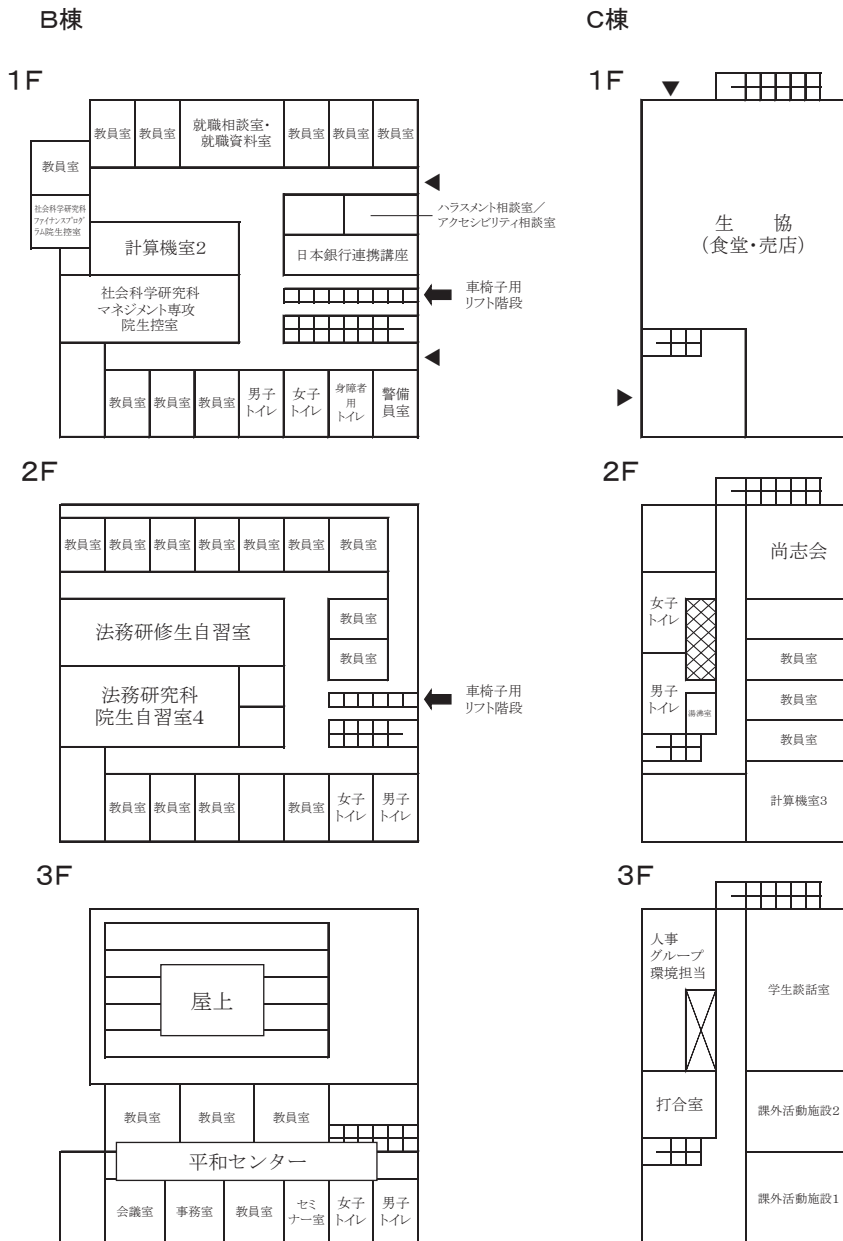


# 5. 東千田キャンパス配置図

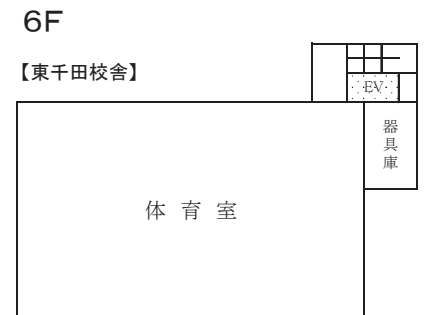
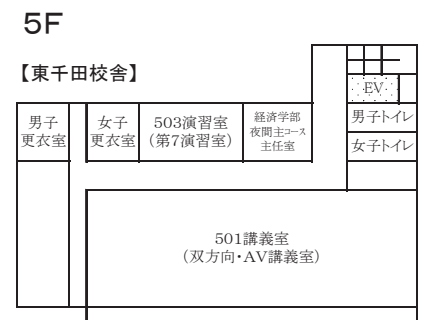
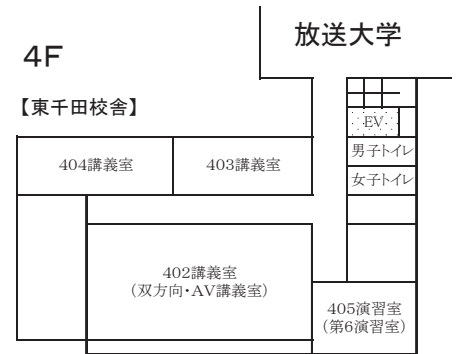
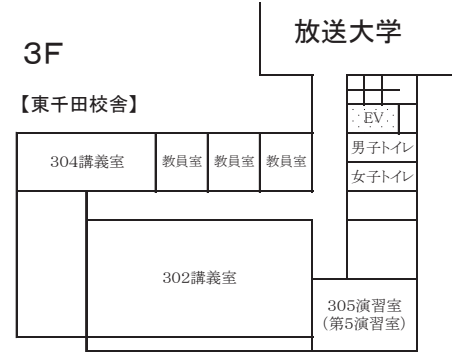
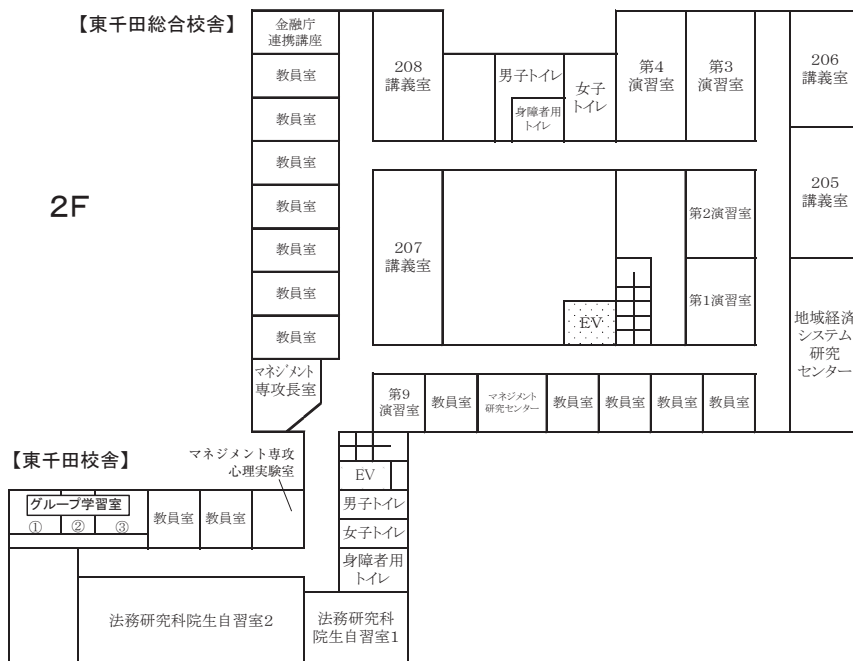
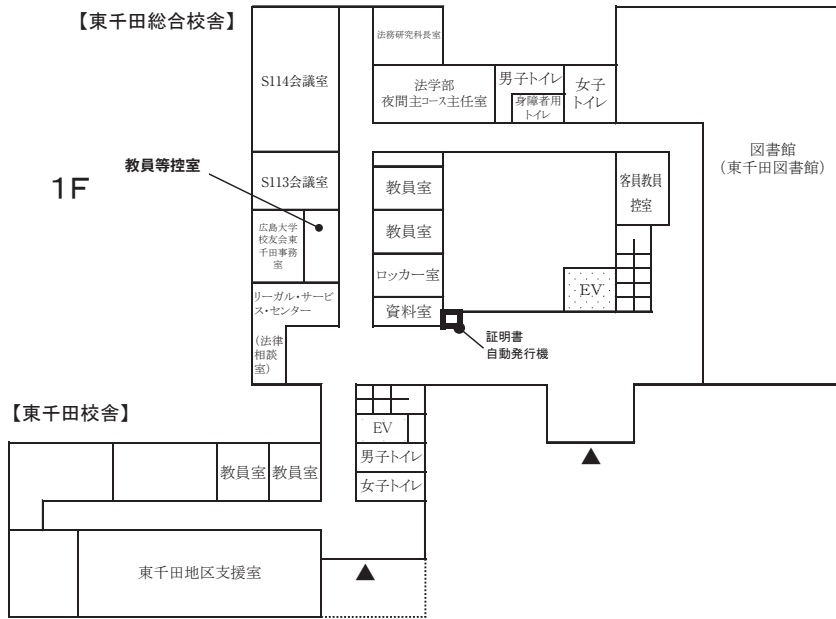
東千田キャンパス配置図



東千田地区共用施設

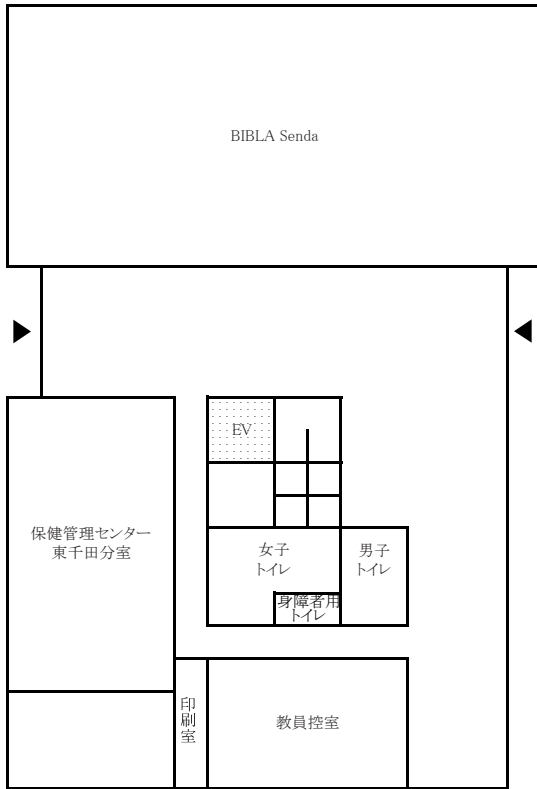


# 東千田総合校舎・東千田校舎（S棟・A棟）

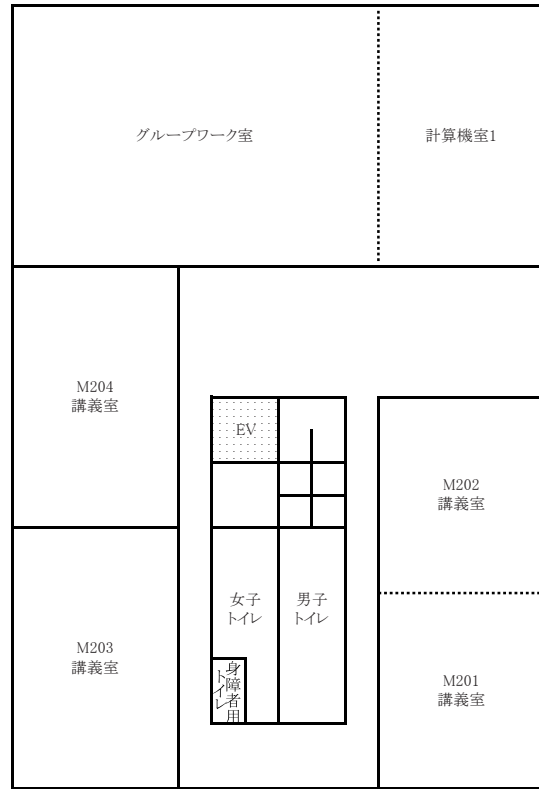




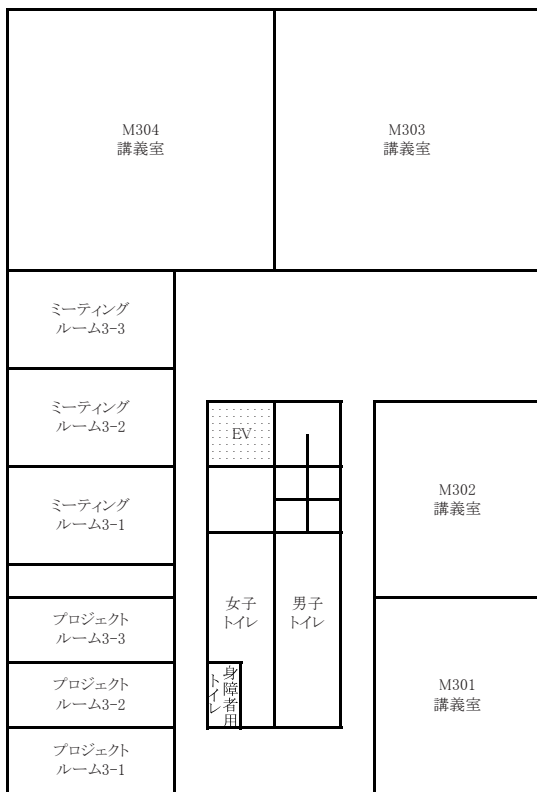
# 東千田未来創生センター（M棟）



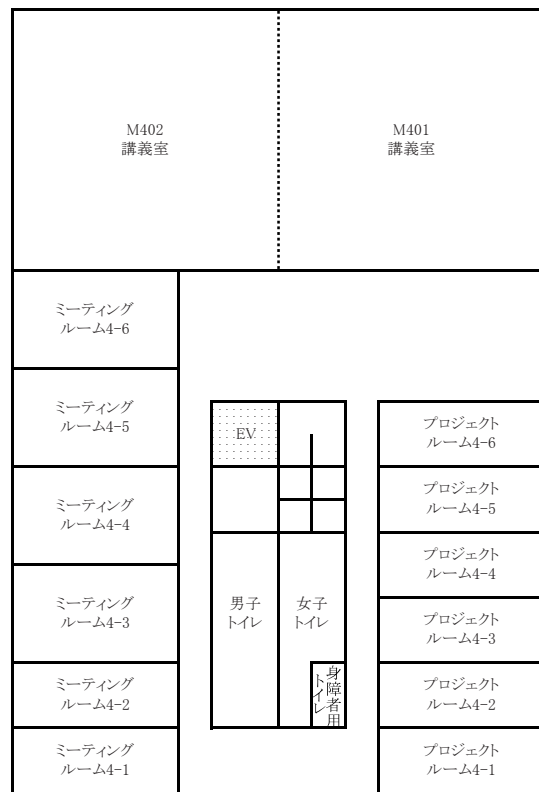
1 F



2 F



3 F



4 F

## 6. 教養教育担当及び各学部学生支援担当の連絡先

教養教育科目の履修に関する質問・相談は、教育推進グループ教養教育担当及び東千田地区支援室で受け付けています。また、学部が定める履修基準などに関する質問・相談については、所属学部の学生支援担当に相談してください。

なお、E-mailを送るときには、必ず学生番号と名前を書いてください。

### 東広島キャンパス（東広島市）

受付時間：（月～金） 8時30分～17時15分

所属学部	教務担当窓口	電話番号	E-mail アドレス
総合科学部	総合科学研究科支援室 総合科学科担当	082-424-6315	souka-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
	総合科学研究科支援室 国際共創学科担当	082-424-7988	
文学部	文学研究科支援室 学士課程担当	082-424-6613	bun-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
教育学部	教育学研究科支援室 学士課程担当	082-424-6725	kyoiku-gakusi@office.hiroshima-u.ac.jp
法学部 昼間コース	社会科学研究科支援室 法学部担当	082-424-7215	syakai-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
経済学部 昼間コース	社会科学研究科支援室 経済学部担当	082-424-7217	
理学部	理学研究科支援室 学士課程担当	082-424-7317	ri-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
工学部	工学研究科支援室 工学部担当	082-424-7524	kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp
生物生産学部	生物圏科学研究科支援室 学士課程担当	082-424-7915	sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
情報科学部	工学研究科支援室 情報科学部担当	082-424-7611	kou-gaku-gakubu@office.hiroshima-u.ac.jp
教育推進グループ教養教育担当		082-424-4218	gsyugaku-group@office.hiroshima-u.ac.jp

※教育推進グループ教養教育担当は総合科学部事務棟1階（場所は p. 教養39参照）にあります。

### 霞キャンパス（広島市）

受付時間：（月～金） 8時30分～17時15分

所属学部	教務担当窓口	電話番号	E-mail アドレス
医学部	霞地区運営支援部 学生支援グループ医学部担当	082-257-5049	kasumi-gaku-m@office.hiroshima-u.ac.jp
歯学部	霞地区運営支援部 学生支援グループ歯学部担当	082-257-5614	kasumi-gaku-d@office.hiroshima-u.ac.jp
薬学部	霞地区運営支援部 学生支援グループ薬学部担当	082-257-5777	kasumi-gaku-p@office.hiroshima-u.ac.jp

### 東千田キャンパス（広島市）

受付時間：（月～金） 12時30分～21時15分

所属学部	教務担当窓口	電話番号	E-mail アドレス
法学部 夜間主コース	東千田地区支援室 法学部夜間主コース担当	082-542-6998	senda-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp
経済学部 夜間主コース	東千田地区支援室 経済学部夜間主コース担当	082-542-6961	